

vRealize Automation 8 移行ガイド

2022 年 10 月

vRealize Automation 8.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1
田町ステーションタワー N 18 階
www.vmware.com/jp

Copyright © 2022 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

目次

1	vRealize Automation 8 移行ガイド	6
2	vRealize Automation 8.x にアップグレードする方法	7
3	vRealize Automation 8.x にアップグレードする方法	9
4	vRealize Automation 8 移行アシスタントを使用した移行評価の実行	10
	ソース インスタンスでの移行評価の実行	10
	評価結果の表示	13
	vRealize Automation 8 に関する考慮事項	14
	スケーラビリティに関する考慮事項	14
	レガシー拡張性の使用	14
	vRealize Orchestrator プラグイン	14
	vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述	15
	vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用	15
5	vRealize Suite Lifecycle Manager を使用したテナントの移行	17
	テナント移行の前提条件	18
	vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 のインストール	18
	vRealize Automation 7.5/7.6 のインポート	19
	VMware Identity Manager 3.3.3 のインストールまたは VMware Identity Manager 3.3.3 へのアップグレード	20
	vRealize Automation 8 へのアップグレード	20
	vRealize Automation 7 または 8 環境およびグローバル環境でのインベントリの同期の実行	21
	マルチテナントの有効化	21
	テナントを移行する方法	22
	テナントをマージする方法	24
6	vRealize Automation 8 移行アシスタントを使用した移行の実行	26
7	移行の前提条件	28
8	移行の制限事項	29
	ブループリントの制限事項	29
	XaaS の制限事項	30
	ネットワークの制限事項	30
	展開の制限事項	31
	vIDM の制限事項	32

エンドポイントの制限事項	33
サブスクリプションの制限事項	33
カスタム プロパティの制限事項	34
クラウド ゾーンの制限事項	35
予約の制限事項	35
ビジネス グループの制限	35

9 既存環境を利用した移行を実行する方法 36

10 vRealize Automation 7 インフラストラクチャの移行 38

vRealize Automation 8 でのビジネス グループのマッピング方法	42
ユーザー	42
ブループリントに関する考慮事項	43
プロジェクト間でクラウド テンプレートを移行および共有する方法	44
vRealize Automation 6.x のブループリントの使用方法	45
VMware Cloud Templates	45
カスタム フォームのブループリント	45
コンポーネント プロファイルのブループリント	46
NSX のサポート	47
XaaS に関する考慮事項	47
XaaS ブループリント	48
カスタム リソース	48
リソース マッピングとリソース アクション	49
資格に関する考慮事項	49
vRealize Automation 8 での資格付与アクションのマッピング方法	49
エンドポイントに関する考慮事項	51
承認ポリシーに関する考慮事項	52
ネットワークに関する考慮事項	55
予約に関する考慮事項	59
最適化された予約	60
カスタム プロパティに関する考慮事項	60
プロパティ グループに関する考慮事項	60
マルチテナントに関する考慮事項	64

11 vRealize Automation 7 サブスクリプションの移行 65

サブスクリプションのマッピングと考慮事項	67
----------------------	----

12 vRealize Automation 7 展開の移行 71

展開に関する考慮事項	72
NSX 展開のオンボーディング サポート	73

13 vRealize Orchestrator の移行 74

組み込み vRealize Orchestrator 7.x インスタンスの移行 75

組み込み vRealize Orchestrator 7.x クラスタの移行 76

ファイル システムにアクセスするコンテンツに対する追加の移行要件 77

14 移行の結果の確認方法 78

vRealize Automation 7 と vRealize Automation 8 の間の構造のマッピングを表示する方法 78

15 移行のロールバック時に発生する処理 80

移行後に実行した移行元環境への更新を移行する方法 80

16 移行後の手動の手順 82

17 移行後の検証手順 83

18 移行のトラブルシューティング 85

トラブルシューティング：移行評価 85

トラブルシューティング：移行の失敗 86

トラブルシューティング：移行のロールバックの失敗 86

19 使用事例：ライブの本番環境を変更することなく本番環境の変更を特定して計画する方法 87

vRealize Automation 8 移行ガイド

1

この移行ガイドにより、vRealize Automation 7 環境から vRealize Automation 8 に容易に移行することができます。

現在、vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールは、7.6 移行元環境からの移行のみをサポートしています。ただし、次の移行元環境に移行評価を実行することはできます。

- vRealize Automation 7.6
- vRealize Automation 7.5
- vRealize Automation 7.4
- vRealize Automation 7.3

[制限事項:] vRealize Automation 8 移行アシスタントでは以下がサポートされていません。

- 外部の vRealize Orchestrator インスタンスを使用した移行。移行アシスタントでサポートされるのは、組み込みの vRealize Orchestrator の移行のみです。

vRealize Automation 7.x の拡張性を vRealize Automation 8 に移行することについては、[vRealize Automation 8.x Extensibility Migration Guide](#) を参照してください。

- vROps 統合の移行。vROps 統合は vRealize Automation 8 に手動で移行する必要があります。

vRealize Automation 8.x にアップグレードする方法

2

状況に応じて、移行アシスタントまたはオンボーディング機能を使用して vRealize Automation 8 に移行できます。

移行アシスタントを使用した vRealize Automation 8 への移行

ほとんどの場合、vRealize Automation 7.x から vRealize Automation 8 への移行には移行アシスタントによるサポートが適しています。ただし、一部のユーザーにはオンボーディングを使用した移行が推奨されます。オンボーディングのユースケースについては、次のセクションの「オンボーディング機能を使用した vRealize Automation 8 への移行」を参照してください。移行アシスタントを使用した移行は、次の場合に推奨されます。

- [ネットワーク]
 - 移行アシスタントには、主にネットワークに関する展開構成要素を識別するための高度な機能があります。移行アシスタントでは、すべてのクラウド内のすべてのネットワーク オブジェクト、ネイティブ IP アドレス管理による IP アドレス管理、ロード バランサ、およびセキュリティ グループの移行がサポートされます。オンボーディングでは、この機能はサポートされていません。
- [ワークロードへの VCT の割り当て]
 - 移行アシスタントでは、移行するワークロードにブループリントを割り当てることができます。ワークロードは、vRA 8 の VCT と互換性があります。オンボーディングでは、この機能はサポートされていません。
- [カスタム プロパティとプロパティ グループ（制限付き）の自動認識]
 - 移行アシスタントは、ブループリントおよびワークロードで使用されているカスタム プロパティまたはプロパティ グループを自動的に認識し、vRA 8 のワークロードに適用して、カスタム プロパティの機能と期待される動作を維持します。
- [オンボーディングにはない移行アシスタントの機能]
 - 移行アシスタントには、オンボーディングにはない多くの機能があります。たとえば、展開履歴の移行、展開メタデータ（名前、説明、リースの有効期限、所有権など）の維持、カスタム リソースの移行、カスタム フォームの移行、リース ポリシーの互換性、vRA 7.x 消費モデルの保持などがサポートされます。
- [クラウド ゾーンのマッピングと制限との互換性]
 - 移行アシスタントを使用して移行されたワークロードは、自動的に適切なクラウド ゾーンに配置されます。また、プロジェクトとクラウド ゾーンの間の割り当てとして指定された制限にも準拠します。

■ [スケール アウトのサポート]

- vRA 8 には、マシンのスケール アウトのための Day 2 アクションはありません。これに対処するために、vRA では対話型の展開を使用し、VCT パラメータを変更した後、プロビジョニングされた展開に再適用することでスケール アウトします。オンボーディングでは、この機能はサポートされていません。

オンボーディング機能を使用した vRealize Automation への移行

移行アシスタントを使用する代わりにオンボーディング機能を使用して、特定の vRealize Automation 7.x ワークロードを 8.x に移行できます。オンボーディングを使用した移行は、マシンおよび接続されたオブジェクト（ディスクとネットワーク）のみに制限されます。オンボーディングの場合、単一のオンボーディング プランで 1 台または複数のマシンを vRealize Automation Cloud Assembly にオンボーディングできます。オンボーディング機能を使用した移行は、次の場合に推奨されます。

■ [VCF のサイド バイ サイド移行]

- vRealize Automation 7.x から 8.x への移行と同時に VCF 3.x から 4.x に移行する場合は、オンボーディングが推奨されます。移行するには、別の VCF 4 スタックを設定し、HCX を使用してワークロードを移行します。その後、この VCF 4 スタック内に展開された新しい vRealize Automation 8 インスタンスにこれらのワークロードをオンボーディングします。

■ [展開環境での vRealize Automation の変更]

- vRealize Automation 8.x の使用方法を 7.x のときから変更する場合は、オンボーディングが推奨されます。たとえば、ビジネス グループの少数プロジェクトへの統合、ブループリントの再構築、7.x 内の重要でないコンテンツの無視、既存のプロセスの新しいメソッドへの更新などの場合です。

■ [名前の変更やカスタム プロパティの追加などの展開に対する変更]

注： ワークロードのオンボーディングは、vRealize Automation 7.x には接続されず、ブループリントやカスタム プロパティなどの vRA 7 の構成要素およびメタデータにはアクセスできません。vRA 8 によって検出されたインベントリに対してのみ動作します。

- オンボーディングは、名前を変更する、カスタム プロパティを追加するなど、展開のメタデータに変更を加える場合に推奨されます。

■ [本番の vRealize Automation 7.x で変更が必要]

- 移行アシスタントによって報告された非互換性に対処するために、本番の 7.x 環境に変更を加えることを避ける場合は、オンボーディングが推奨されます。たとえば、使用しなくなったコンテンツを公開解除できない場合や、ブループリントへの変更、vRO ワークフローの更新、資格の更新、カスタム Day 2 アクションの更新などを行う場合です。

■ [vRealize Automation 7.x から vRealize Automation Cloud への移行]

- vRA 7.x オンプレミス環境を vRA Cloud に移行する場合は、オンボーディングが推奨されます。現在、移行アシスタントではこの移行パスのユースケースはサポートされていません。

オンボーディングの詳細については、[オンボーディング プランについて](#)を参照してください。

vRealize Automation 8.x にアップグレードする方法

3

VMware vRealize Suite Lifecycle Manager を使用して、vRealize Automation 8.x インスタンスを最新の vRA 8.x バージョンにアップグレードできます。

vRealize Automation 8.x のアップグレードについては、[vRealize Suite Lifecycle Manager](#) および [vRealize Suite 製品のアップグレード](#)を参照してください。

vRealize Automation 8 移行アシスタントを使用した移行評価の実行

4

vRealize Automation 8 に移行するには、移行評価を実行する必要があります。

移行元の環境と組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスに対して移行評価を実行して、vRealize Automation 7 の移行元環境の移行準備状況を判断できます。移行評価では、移行の準備ができておらず、移行プロセスに影響を与えるシステム オブジェクトとその依存関係についてのアラートが表示されます。[vRealize Automation 8 に関する考慮事項](#)を参照してください。

移行評価を実行した後、移行によって、現在の vRealize Automation 7 移行元環境から vRealize Automation 8 にコンテンツおよび構成データをインポートできます。

移行評価と移行を実行するには、移行アシスタント サービスを有効にする必要があります。

[移行アシスタント機能を有効にするには、次の手順を実行します。]

- 1 新しい vRealize Automation 8 インスタンスをアップグレードして展開した後、[ID およびアクセス権の管理] に移動します。
- 2 ユーザーを選択し、ロールを編集してクラウド管理者、および移行サービスの管理者または閲覧者にします。移行評価サービスを追加します。
- 3 vRealize Automation 8 からユーザーをログアウトします。
- 4 ユーザーを vRealize Automation 8 にログインすると、移行評価タイルが表示されます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [ソース インスタンスでの移行評価の実行](#)
- [評価結果の表示](#)
- [vRealize Automation 8 に関する考慮事項](#)

ソース インスタンスでの移行評価の実行

1 つの vRealize Automation 7 または vRealize Orchestrator のソース インスタンスに対して移行評価を実行して、移行の準備状況を判断できます。



vRA 8 Migration



Getting Started

Source Instances

Infrastructure Migration

Subscriptions Migration

Deployments Migration

Configuration



NSX V2T Migration



Getting Started

Migration Plans

Getting Started with vRealize Automation

The migration assistant service first determines the migration readiness of your current vRealize Automation 7 environment to vRealize Automation 8.

1. Configure source instances

Before migrating, you must run a migration assessment by adding your vRealize Automation 7 source instances to the vRealize Automation 8 embedded vRealize Orchestrator instances. Once connected, the migration assistant service will assess the readiness of your source environment.

2. Review Migration Assessment Results

After the migration assessment is run on your source vRealize Automation 7 environment, the migration assistant service will identify the items and their dependencies as ready, ready with warnings, or not ready.

3. Migration

Incrementally migrate your source environment to vRealize Automation 8 by selecting the items you want to migrate. Items that are not ready must be reviewed and edited in your source environment before migrating.

Learn more

Several types of vRealize Automation 7 system objects are transformed when migrating to vRealize Automation 8. For more information, see the [vRealize Automation 8 Transition Guide](#).

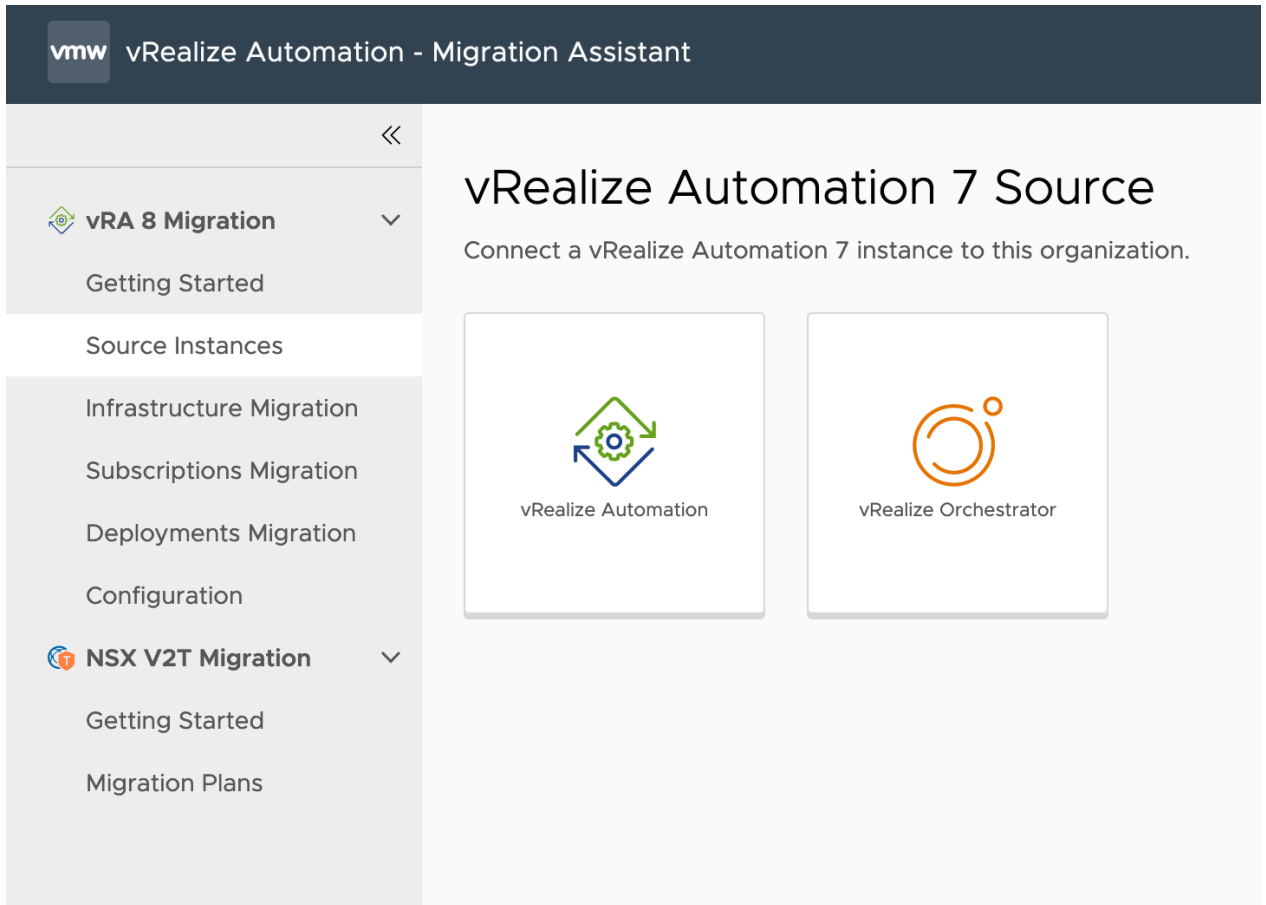
[NEXT: ADD A SOURCE INSTANCE](#)

移行評価のプロセスには、vRealize Automation ソース インスタンスへの接続と、vRealize Automation インスタンスと組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスの評価が含まれます。

移行評価では、どのオブジェクトを維持して移行するかを特定します。評価結果を確認することで、移行前の環境内で正しく設定されていないアイテムや、移行に対する準備ができていないアイテムを修正できます。

手順

- 1 [ソース インスタンス] 画面で、[ソース アカウントの追加] をクリックします。
- 2 ソース タイプとして vRealize Automation または vRealize Orchestrator を選択します。



- 3 vRealize Automation 7 または vRealize Orchestrator の移行前環境の認証情報を入力します。

注： [ホスト名] テキスト ボックスにソースとして vRealize Automation プライマリ ノードの FQDN または IP アドレスを指定する必要があります。例：test-n-88-087.test.vmware.com

- 4 [検証して保存] をクリックし、移行に使用できるすべてのテナントを検証して識別します。

注： 使用可能なすべてのテナントを識別するには、移行前の環境のシステム管理者とパスワードを指定する必要があります。

- 5 [これらのテナントからの移行を許可] で、vRealize Automation 8 で評価するテナントを切り替えて選択します。

注： マルチテナント環境を評価して移行するには、すべてのテナントを手動で作成し、各テナントから個別に移行を実行する必要があります。すべての vRA 7 テナントは、vRA 8 テナントから参照できます。

注： 組み込みの vRealize Orchestrator のみに移行評価を実行する場合は、テナントを選択しません。

- 6 (オプション) 組み込みの vRealize Orchestrator で移行を実行するには、[組み込み vRealize Orchestrator の評価を有効にする] を選択します。
- 7 [保存] をクリックして、選択したソース テナントの移行評価を完了します。

結果

移行の準備状況について、移行前の環境が評価されます。[ソース インスタンス] 画面で、移行前の環境の構成の詳細を表示できます。また、ソース インスタンスのタイルで [エクスポート] をクリックして、評価レポートをローカルドライブにエクスポートすることもできます。

注： 200 を超えるビジネス グループを含むレポートはエクスポートしないでください。200 を超えるビジネス グループの評価レポートは、評価サービス メモリからコンパイルされ、ビジネス グループの詳細は含まれません。

評価結果の表示

ソース インスタンスで移行評価を実行した後、結果を表示できます。

評価結果は、[移行] ペインの複数のタブにアイテム化されます。

- インフラストラクチャ
- サブスクリプション
- 展開

評価されたアイテムが、ステータスと共に表示されます。

- 準備完了 - 移行の準備ができました。移行準備のために必要なアクションはありません。
- 準備完了（警告あり） - 準備が完了していますが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性のある問題を修正します。たとえば、一部のカスタム プロパティが準備完了（警告あり）になる場合があります。カスタム プロパティ：VMware.Network.Type は、部分的にサポートされており、準備完了（警告あり）のフラグが付いています。これは、vRealize Automation 8 において、このプロパティの拡張性に関する動作が不明であるためです。
- 準備ができていません - 移行の準備ができていません。移行元環境のアイテムの詳細を確認し、注意が必要な領域を修正するか、移行するアイテムとしての選択を解除します。移行を続行すると、[準備ができていません] とマークされたアイテムは移行から除外されます。
- 評価中 - アイテムは移行準備のために評価中です。
- [評価が失敗しました] - 評価が失敗しました。テストを再試行してください。

該当する場合は、「準備ができていません」または「準備完了（警告あり）」と表示されたアイテムを修正した後、[更新] をクリックして評価結果テーブル上のステータスを更新します。

注： 移行元環境に変更を加える場合は、移行前に移行元環境のテナントを更新して再評価する必要があります。

vRealize Automation 8 に関する考慮事項

vRealize Automation 8 では、さまざまな機能の変更が導入されました。

vRealize Automation 8 の理解を深めるために、vRealize Automation 8 で導入された変更を確認してください。

スケーラビリティに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、スケーラビリティに関して新しい考慮事項があります。

移行を続行する前に、[スケーラビリティと同時実行の最大値](#)を参照してください。

レガシー拡張性の使用

移行後、拡張性機能は vRealize Automation Cloud Assembly サービスでホストされ、イベント ブローカによって管理されます。

移行前の環境によっては、vRealize Automation 8 で拡張性を最適化するには、既存のワークフローおよびアクション コードの変更が必要になる場合があります。変更と新機能は次のとおりです。

- vRealize Orchestrator プラグインのサポート
- Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス
- vRealize Automation Cloud Assembly で使用するためのワークフローまたはアクション コードの再書き込み
- vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

vRealize Automation 7.x から 8.x への拡張性の変更の詳細については、[vRealize Automation 8.x Extensibility Migration Guide](#) を参照してください。

vRealize Orchestrator プラグイン

vRealize Automation では、いくつかの vRealize Orchestrator プラグインはサポートされていません。

次のプラグインはサポートされなくなりました。

- vRealize Automation CAFE プラグイン
- vRealize Automation.NET プラグイン
- vRealize Automation REST プラグイン

新しい vRealize Automation 8 API インターフェイスを使用するには、vRealize Orchestrator のすべてのカスタム コンテンツを書き換える必要があります。REST プラグインを使用した vRealize Automation への API 呼び出しに依存する実装は書き換える必要があります。

リファクタリングの労力を削減する必要があるワークフローの記述については、[vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述](#)を参照してください。

vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述

これらのベスト プラクティスを使用すると、拡張性コードとワークフローを記述して、vRealize Automation Cloud Assembly と簡単に連携できます。

vRealize Automation Cloud Assembly 8.x での拡張性の詳細については、[vRealize Automation 8.x Extensibility Migration Guide](#)を参照してください。

イベント ブローカからのペイロードの使用

Cloud Assembly でイベントをサブスクライブすると、イベント ブローカーがワークフローをトリガしてペイロードに渡します。ペイロードには、ワークフローに必要なすべてのデータが含まれている必要があります。ワークフローで追加のデータが必要な場合、各種の vRA 8 サービス API を呼び出して取得できます。

拡張性アクション

vRealize Automation Cloud Assembly では、vRO に依存しない python、nodejs、および powershell スクリプトを使用して、アクションベースの拡張性 (ABX) と呼ばれるカスタマイズされたアクションを作成できます。ABX の詳細については、[拡張性アクションの詳細](#)を参照してください。

vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

移行後、移行された vRealize Automation 7 拡張性を vRealize Automation Cloud Assembly で使用するときには以下のサブスクリプションを使用します。

vRealize Automation 7 のサブスクリプションの一部は、vRealize Automation 8 に移行できません。サブスクリプションが移行可能かどうかを判断するには、評価レポートを確認します。

表 4-1. vRealize Automation Cloud Assembly 内のサブスクリプション

vRealize Automation 7.x サブスクリプション	vRealize Automation 8 サブスクリプション
ブループリント コンポーネントの完了	展開リソースの完了
ブループリント コンポーネントの申請	展開リソースの申請
ブループリント構成	ブループリント構成
ブループリント申請の完了	展開の完了
ブループリントの申請	展開の申請
ビジネス グループ構成	サポートなし
カタログ申請の完了	展開の完了
カタログ申請の受信	展開の申請
コンポーネント アクションの完了	展開リソース アクションの完了
コンポーネント アクションの申請	展開リソース アクションの申請
展開アクションの完了	展開アクションの完了 (deployment.action.post)

表 4-1. vRealize Automation Cloud Assembly 内のサブスクリプション（続き）

vRealize Automation 7.x サブスクリプション	vRealize Automation 8 サブスクリプション
展開アクションの申請	展開アクションの申請 (deployment.action.pre)
エンドポイント アクション	サポートなし
EventLog デフォルト イベント	EventLog
インフラストラクチャ エンドポイントのテスト接続	サポートなし
IP アドレス管理の IP アドレス ライフサイクル イベントの完了	サポートなし
マシンのライフサイクル	サポートなし
マシン プロビジョニング	条件付き。状態による。
オーケストレーション サーバ構成	サポートなし
オーケストレーション サーバ構成 (XaaS)	サポートなし
事後承認	サポートなし
事前承認	サポートなし
リソース再利用完了イベント	サポートなし

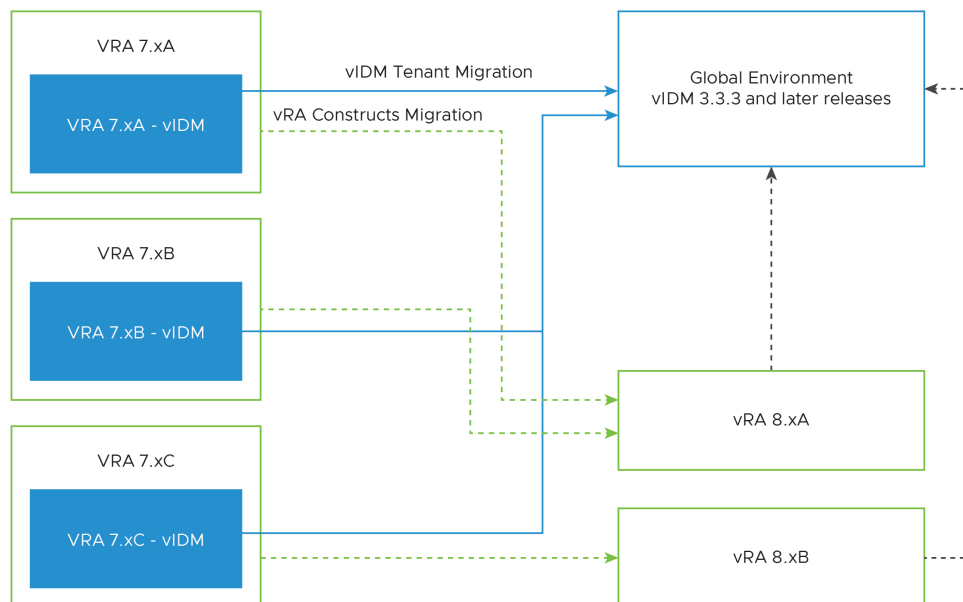
vRealize Suite Lifecycle Manager を使用したテナントの移行

5

システム ニーズによっては、vRealize Automation 8.x に移行する前に、vRealize Suite Lifecycle Manager を使用して移行元テナントを移行することが必要な場合があります。

テナントの移行では、Workspace ONE Access (旧称 VMware Identity Manager)、vRealize Suite Lifecycle Manager、vRealize Automation の密接な連携が必要です。vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してテナントを移行すると、vRealize Automation 7 の組み込みの VMware Identity Manager のデータは VMware Identity Manager バージョン 3.3.3 以降のグローバル環境に移行されます。テナントを移行した後、vRealize Automation でテナントのマージ操作を実行できます。この操作で vRealize Automation 7 環境を vRealize Automation 8 に移行します。テナントの追加、削除、または管理の詳細については、vRealize Suite Lifecycle Manager のドキュメントの[テナント管理](#)セクションを参照してください。vRealize Suite Lifecycle Manager を使用したテナントの移行のビデオ ウォークスルーについては、[vRealize 8.x -Tenant Migration](#) を参照してください。

注： vRealize Automation 7.4 では、vRealize Suite Lifecycle Manager を使用したテナントの移行がサポートされません。テナントの移行がサポートされるのは、7.5 および 7.6 のみです。vRealize Automation 7.4 から 8.x にテナントを移行するには、手動による移行が必要です。テナントを評価して、vRealize Automation 7.x から同一の vRA 8.x インスタンスの 2 つ以上の組織にテナントを移行する操作は、vRealize Automation 8.x ではサポートされていません。



[前提条件]

テナントを移行する前に、前提条件として次の手順を実行する必要があります。

- vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 のインストール
- vRealize Automation 7.5/7.6 のインポート
- VMware Identity Manager 3.3.3 のインストールまたは VMware Identity Manager 3.3.3 へのアップグレード
- vRealize Automation 8 へのアップグレード
- vRealize Automation 7 または 8 環境およびグローバル環境でのインベントリの同期の実行
- マルチテナントの有効化

この章には、次のトピックが含まれています。

- テナント移行の前提条件
- テナントを移行する方法
- テナントをマージする方法

テナント移行の前提条件

テナントを移行する前に、テナントを移行およびマージするための前提条件と重要な手順について確認します。

- vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 のインストール
- vRealize Automation 7.5/7.6 のインポート
- VMware Identity Manager 3.3.3 のインストールまたは VMware Identity Manager 3.3.3 へのアップグレード
- vRealize Automation 8 へのアップグレード
- vRealize Automation 7 または 8 環境およびグローバル環境でのインベントリの同期の実行
- マルチテナントの有効化

vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 のインストール

vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 をダウンロードするには、VMware パッチ ダウンロード センターにアクセスし、[製品別検索] ドロップダウン メニューから vRealize Suite Lifecycle Manager を選択します。

インターネットに接続されていない vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスの場合：

注： vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 Patch 1 は、vRealize Suite Lifecycle Manager バージョン 8.2 以前にのみ適用されます。

- 1 vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスのスナップショットを作成してあることを確認します。

- 2 vRealize Lifecycle Manager 仮想アプライアンスにログインします。
- 3 [ライフサイクル操作] ダッシュボードで、[設定] - [バイナリ マッピング] の順に移動し、[パッチ バイナリ] をクリックします。
- 4 [アップロード] - [ファイルの選択] の順にクリックして、[VMware パッチ ダウンロード センター](#)からダウンロードした vRealize Suite Lifecycle Manager バージョン 8.2 Patch 1 をアップロードします。
- 5 [設定] - [システム パッチ] の順に移動します。
- 6 [新規パッチ] をクリックし、パッチを選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 パッチをインストールするには、[インストール] をクリックします。パッチのインストールが正常に実行されると、vRealize Suite Lifecycle Manager サービスが再起動され、vRealize Suite Lifecycle Manager ユーザー インターフェイスのログイン画面にリダイレクトされます。

注： 新しいパッチを検証するには、[ライフサイクル操作] ダイアログ ボックスで [設定] > [システム パッチ] の順に移動し、[パッチの詳細] を選択します。

インターネットに接続されている vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスの場合：

- 1 vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスのスナップショットを作成してあることを確認します。
- 2 vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスにログインします。
- 3 [ライフサイクル操作] ダッシュボードで、[設定] - [バイナリ マッピング] の順に移動し、[パッチ バイナリ] をクリックします。
- 4 [オンラインでパッチを確認] をクリックし、vRealize Suite Lifecycle Manager 8.2 のパッチを検索してダウンロードします。
- 5 [設定] - [システム パッチ] の順に移動します。
- 6 [新規パッチ] をクリックし、パッチを選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 パッチをインストールするには、[インストール] をクリックします。パッチのインストールが正常に実行されると、vRealize Suite Lifecycle Manager サービスが再起動され、vRealize Suite Lifecycle Manager ユーザー インターフェイスのログイン画面にリダイレクトされます。

注： 新しいパッチを検証するには、[ライフサイクル操作] ダッシュボードで [設定] - [システム パッチ] の順に移動して、[パッチの詳細] を選択します。

vRealize Automation 7.5/7.6 のインポート

既存の vRealize Automation 7.5 または 7.6 環境がある場合は、vRealize Suite Lifecycle Manager が vRealize Automation 環境を管理できるように、この環境を vRealize Suite Lifecycle Manager にインポートする必要があります。

注： vRealize Automation 7.4 以前のバージョンの場合は、vRealize Automation 7.5 または 7.6 にアップグレードしてから、その環境を vRealize Suite Lifecycle Manager にインポートします。

VMware Identity Manager 3.3.3 のインストールまたは VMware Identity Manager 3.3.3 へのアップグレード

vRealize Suite Lifecycle Manager を使用して、VMware Identity Manager の新規インストールを実行するか既存のインスタンスをアップグレードすることができます。また、vRealize Suite Lifecycle Manager の外部でアップグレードしてから、vRealize Suite Lifecycle Manager でインベントリの同期を実行することによって再インポートすることもできます。

VMware Identity Manager の最新バージョンおよびアップグレード手順の詳細について [VMware Identity Manager リリース ノート](#) を参照してから、vRealize Suite Lifecycle Manager でアップグレードを実行してください。

vRealize Suite Lifecycle Manager を使用して VMware Identity Manager をアップグレードする場合、次の手順を実行します。

- VMware Identity Manager ノードのスナップショットを作成してあることを確認します。
- 製品のバイナリがマッピングしてあることを確認します。
- クラスタ化された VMware Identity Manager のアップグレードの場合は、トラフィックがスタンドバイ ノードにルーティングされないようにロード バランサ内のすべてのスタンドバイ ノードを無効にし、アップグレードが完了したら必ず有効に戻します。

アップグレード手順を完了するには、vRealize Suite Lifecycle Manager ドキュメントの [Upgrade VMware Identity Manager](#) セクションを参照してください。

vRealize Automation 8 へのアップグレード

vRealize Suite Lifecycle Manager で vRealize Automation をアップグレードしてから、Patch 1 を適用できます。アップグレードする場合は、次の手順を実行します。

前提条件

- vRealize Suite Lifecycle Manager を最新バージョンにアップグレードしておきます。
- VMware Identity Manager を 3.3.3 にアップグレードしておきます。
- vRealize Automation 8.0、8.0.1、または 8.1 をインストールしてある場合は、最新の vRealize Automation 8.x バージョンにアップグレードします。
- ローカル、myvmware、または NFS 共有から、vRealize Automation パッチ ファイルのバイナリ マッピングを実行します。バイナリ マッピングの詳細については、製品バイナリの構成に関する説明を参照してください。
- vRealize Automation 8.4 のシステム要件に従って CPU、メモリ、ストレージを増やします。詳細については、[vRealize Automation 8.4 リファレンス アーキテクチャ](#) の「ハードウェア要件」を参照してください。

vRealize Automation にパッチを適用する手順については、[Patching for Products through vRealize Suite Lifecycle Manager](#) を参照してください。

vRealize Automation 7 または 8 環境およびグローバル環境でのインベントリの同期の実行

外部で製品を構成すると、vRealize Suite Lifecycle Manager 管理されている製品は vRealize Suite Lifecycle Manager 同期されません。構成を更新するには、インベントリの同期を実行する必要があります。

インベントリの同期を実行することには、次のような利点があります。

- 障害が発生している場合は、インベントリの同期により vRealize Suite Lifecycle Manager で正しいプライマリ ノードに更新されます。
- vRealize Suite Lifecycle Manager の外部で製品のコンポーネントを追加または削除した場合、インベントリの同期を実行すると更新されます。
- 製品のパスワードを変更した場合は、インベントリと同期しても最終的に要求は失敗します。この場合は、正しいパスワードを使用して再試行します。vRealize Automation などのアプリケーションでパスワードを直接変更するには、vRealize Suite Lifecycle Manager で製品のインベントリ同期を実行して、変更したパスワードを同期する必要があります。この操作を実行すると、インベントリの同期中に、変更したパスワードの入力を要求されます。

すべての環境のすべての製品について、次の方法に従ってインベントリを同期します。

- 製品カード上の横向き省略記号をクリックし、[インベントリ同期の開始] をクリックします。
- 複数の環境があり、1つの環境に複数の製品がある場合は、[環境] 画面で [インベントリ同期の開始] をクリックすると、すべての環境のすべての製品でインベントリ同期が開始されます。
- 製品の [詳細の表示] をクリックし、[インベントリ同期の開始] をクリックすると、必要な製品のインベントリ同期が開始されます。

マルチテナントの有効化

テナントの移行では、マルチテナントを有効にすることができます。

マルチテナントを有効にする場合、次の条件を満たす必要があります。

- VMware Identity Manager のグローバル環境バージョン 3.3.3 以降を使用します。
- vRealize Suite Lifecycle Manager のすべての環境についてインベントリが同期されており、すべての環境および製品が最新の状態であることを確認します。これは、VMware Identity Manager の再登録に必要なすべての VMware Identity Manager 製品の統合を検出するために必要です。
- VMware Identity Manager グローバル環境証明書が vRealize Suite Lifecycle Manager Locker サービスで管理されていることを確認します。
- VMware Identity Manager のスナップショットを作成します。VMware Identity Manager は、テナントの FQDN によってアクセスする必要があります。既存の VMware Identity Manager の URL ではアクセスできません。
- クラスタ化された VMware Identity Manager に対してクラスタ健全性チェックを実行して、VMware Identity Manager クラスタの健全性ステータスが緑色であることを確認します。詳細については、[Day 2 Operations with Other Products In vRealize Suite Lifecycle Manager](#) を参照してください。

- VMware Identity Manager の証明書がプライマリ テナント エイリアスの FQDN で更新されていることを確認します。また、プライマリ テナント エイリアスの FQDN をマッピングする A タイプの DNS レコードが追加されていることも確認します。必須の証明書と DNS の要件の詳細については、[マルチテナント モデル](#)を参照してください。

テナントを移行する方法

vRealize Suite Lifecycle Manager を使用すると、vRealize Automation 7.5、7.6、8.0 の VMware Identity Manager のデータを VMware Identity Manager 3.3.3 以降のグローバル環境に移行できます。

vRealize Suite Lifecycle Manager では、次の内容が移行されます。

- テナント
- ディレクトリ
- カスタム グループ
- ロールとルール セット
- ユーザー属性
- アクセス ポリシー
- ネットワーク範囲
- サードパーティ IDP 構成

前提条件

- 移行元テナントの SMTP 情報を VMware Identity Manager のグローバル環境で構成する必要があります。この情報は、すべてのローカル ユーザーのパスワードをリセットする手順を E メールで受信するために必要です。移行元テナントのすべてのローカル ユーザーは、テナント移行の前に有効なメール アドレスを持っている必要があります。
- 移行の際は、VMware Identity Manager のグローバル環境から vRealize Automation 7.x データベースへのリモート接続を有効にする必要があります。リモート接続を有効にする方法の詳細については、ナレッジベースの記事 [KB81219](#) を参照してください。
- vRealize Automation および VMware Identity Manager で DNS が構成済みであることを確認します。DNS および証明書の要件の詳細については、vRealize Suite Lifecycle Manager のドキュメントで DNS および証明書の要件を参照してください。
- テナントの移行前に、移行元の vRealize Automation 7.x 環境が健全な状態であり、ディレクトリが同期されていることを確認します。

手順

- 1 vRealize Suite Lifecycle Manager の [マイ サービス] ダッシュボードで、[ID およびテナントの管理] をクリックします。
- 2 [テナント管理] を選択し、[テナント移行] をクリックします。

- 3 VMware Identity Manager のテナント移行と vRealize Automation のテナント マッピングに関する情報を確認し、[続行] をクリックします。
- 4 [環境の選択] タブで、移行元環境と移行先環境を選択します。移行元環境と移行先環境の選択に基づいて、移行元の vRealize Automation で使用可能なテナントが表形式で表示されます。vRealize Automation 8.x では、移行またはマージされたテナントのステータスも表示できます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [テナント移行ワークフロー] 画面では、テナント移行とテナント マージのワークフローを確認して、2 つの操作の間の関係を理解できます。

テナント移行では、vRealize Suite Lifecycle Manager を使用して、VMware Identity Manager の特定のデータがグローバル環境の移行先テナントに移行されます。vRealize Suite Lifecycle Manager で vRealize Automation 8.x に新しいテナントを追加すると、7.x のエンドポイントも作成されます。テナントマージでは、マージ元の vRealize Automation 8.x でディレクトリとテナントがすでに作成されています。vRealize Suite Lifecycle Manager によって vRealize Automation 8.x の既存のテナントに 7.x のエンドポイントが作成され、vRealize Automation 上のビジネス グループ、インフラストラクチャ、その他の特定のテナントを移行できます。

- 7 [保存して次へ] をクリックし、移行を進めるために実行する必要がある手動の手順のリストを確認します。前提条件と制限事項を読んで確認したことを示すチェック ボックスを選択します。
- 8 テナント移行ワークフローを指定するには、[テナントの詳細] タブで詳細を入力します。
 - a [移行元テナント] を選択します。

注： リストされる移行元テナントは、移行済みまたはマージ済み以外のテナントです。

- b [テナント名] を入力します。
- c 移行先テナント管理者の詳細で、[移行先テナント ユーザー名]、[名]、[姓]、有効な[メール アドレス]、[パスワード] を入力します。
- d [保存して次へ] をクリックします。移行元の vRealize Automation 7.x から vRealize Automation 8.x テナントに移行する必要があるディレクトリを指定するには、次のディレクトリのいずれかを [ディレクトリ移行] タブで選択します。
 - システム ディレクトリ：コネクタの選択とパスワードの作成は不要です。
 - JIT ディレクトリ：コネクタの選択とパスワードの作成は不要です。
 - LDAP 上の Active Directory：Windows または Linux のターゲット コネクタを選択し、BindPassword を入力します。
 - OpenLDAP：Windows または Linux のターゲット コネクタを選択し、BindPassword を入力します。

- IWA を使用する Active Directory : VMware Identity Manager バージョン 3.3.3 では Windows ターゲット コネクタのみを選択できます。移行に必要なバインド パスワードとドメイン管理者パスワードを入力します。

注： 1 回の操作でディレクトリを移行するには、移行する必要があるすべてのディレクトリを選択します。必要なディレクトリが移行時に選択されていない場合は、この操作を手動で実行する必要があります。

- 9 [検証] をクリックします。検証が成功したら、[保存して次へ] をクリックします。
- 10 [事前チェックの実行] をクリックして、テナントの詳細と証明書の詳細を検証します。[保存して次へ] をクリックします。
- 11 [サマリ手順] タブで、選択内容のサマリを確認できます。
- 12 検証が成功した場合は、[送信] をクリックします。

検証に問題があり、変更を加えてからテナント移行操作を再開する場合は、[保存して終了] をクリックします。同じウィザードをいつでも開いて、事前チェックを再実行して完了し、先に進むことができます。

結果

[申請の詳細] 画面でテナント移行の詳細を確認できます。VMware Identity Manager と vRealize Automation のいずれのテナントにも、そのテナントの FQDN を使用してアクセスできます。

テナントをマージする方法

vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してテナントをマージできます。

前提条件

- vRealize Automation 8.1 では、移行評価時に移行元の証明書を受け入れる必要はありません。vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してテナントをマージまたは管理するには、手動で追加したソース環境を vRealize Automation から削除します。
- VMware Identity Manager の特定のデータがグローバル環境内のターゲット データに移行されることを確認します。

手順

- 1 vRealize Suite Lifecycle Manager の [マイ サービス] ダッシュボードで、[ID およびテナントの管理] をクリックします。
- 2 [テナント管理] を選択し、[テナント移行] をクリックします。
- 3 VMware Identity Manager のテナント移行と vRealize Automation のテナント マッピングに関する情報を確認し、[続行] をクリックします。
- 4 [環境の選択] タブで、移行元環境と移行先環境を選択します。

移行元環境と移行先環境の選択に基づいて、移行元の vRealize Automation で使用可能なテナントが表示形式で表示されます。vRealize Automation 8.x では、移行またはマージされたテナントのステータスも表示できます。

- 5 [テナント移行ワークフロー] 画面で、[次へ] をクリックします。テナント移行とテナント マージのワークフローを確認できます。

- 6 [マージの詳細] タブで、vRealize Automation 7.x の1つ以上のテナント マッピングを選択し、vRealize Automation 8.x の同じまたは異なる宛先テナントとマージできます。

マージ対象のテナントが表示されない場合は、インベントリ同期を実行するか、テナントに対して製品の関連付けを実行します。

- 7 [次へ] をクリックすると、[サマリ手順] タブに選択内容のサマリが表示されます。

- 8 検証が成功した場合は、[送信] をクリックします。

検証に問題があり、変更を加えてからテナント マージ操作を再開する場合は、[保存して終了] をクリックします。同じウィザードをいつでも開いて、事前チェックを再実行して完了し、先に進むことができます。

vRealize Automation 8 移行アシスタントを使用した移行の実行

6

移行評価を実行した後、移行アシスタント ツールを使用して移行元環境を vRealize Automation 8 に移行します。

vRealize Automation 8 移行アシスタントを使用すると、ダウンタイムなしで、またはスケジュール設定されたメンテナンス ウィンドウで、移行元環境を段階的に移行することができます。これにより、どのインフラストラクチャ、サブスクリプション、展開コンポーネントを vRealize Automation 8 に移行するかをより詳細にカスタマイズおよび制御できます。vRealize Automation 移行アシスタントは、使用されているコンテンツまたは公開済みのコンテンツのみを移行します。移行アシスタントでは、無効なコンテンツやドラフトのコンテンツは移行されません。移行の前に、移行元環境に対して移行評価を実行する必要があります。この評価では、移行元環境コンポーネントの移行準備状況を判断します。移行評価を実行すると、[評価] - [インフラストラクチャ] 画面に結果がテナント別に表示されます。評価済みのすべてのアイテムが、ステータスと共に表示されます。

- 準備完了 - 移行の準備ができました。移行準備のために必要なアクションはありません。
- 準備完了（警告あり） - 準備が完了していますが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性のある問題を修正します。
- 準備ができていません - 移行の準備ができていません。移行元環境のアイテムの詳細を確認し、注意が必要な領域を修正します。
- 評価中 - 移行準備のために評価中です。
- 評価が失敗しました - 評価は失敗しました。vRealize Orchestrator と vRealize Automation にアクセスできることを確認してから、テストを再実行します。

移行するには、移行するアイテムを選択し、[移行] をクリックします。ステータスが次のように更新されます。

- 移行中 - アイテムを移行しています。
- 移行済み - 移行は正常に完了しました。移行されたアイテムを vRealize Automation 8 環境で確認、使用できます。
- 失敗 - 移行は失敗しました。移行元環境でアイテムを確認し、必要に応じて変更してから移行を再実行します。
- 除外済み - 「準備ができていません」として一覧表示されていたサブスクリプションまたは展開は移行されていますが、準備ができていないアイテムは移行されず、「除外済み」として一覧表示されています。

移行するコンポーネントに依存関係があり、あらかじめ移行していない場合、移行は失敗します。たとえば、インフラストラクチャ条件を持つサブスクリプションを移行する場合は、事前にインフラストラクチャ コンポーネントを移行する必要があります。

注： 展開を移行すると、関連付けられたビジネス グループの移行が完了します。

移行後、vRealize Automation 7 のソース コンテンツは変更されません。

段階的移行

vRealize Automation 8 移行アシスタントでは、再評価して移行するオプションを使用することにより、一度に全体の移行を実行するのではなく、移行元環境を段階的に移行することができます。再評価して移行するオプションを使用すると、移行元環境が再評価され、すべての変更が移行先環境に移行されます。たとえば、5 つのブループリントを持つビジネス グループを移行してから、さらに 5 つのブループリントを移行元環境で作成または公開した場合、新しい 5 つのブループリントを同じビジネス グループに移行できます。移行元環境の新しいコンテンツのみが移行されます。移行済みのコンテンツへの変更は移行されません。

移行の前提条件

7

移行アシスタント ツールを使用して vRealize Automation 7 の移行元環境を vRealize Automation 8 に移行するには、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

移行の前提条件

- vRealize Automation 7 の移行元環境をバックアップします。
- vRealize Automation 7 のソース コンテンツが外部の vRealize Orchestrator に依存している場合は、最初に vRealize Orchestrator を移行する必要があります。[vRealize Orchestrator の移行](#)を参照してください。
- vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してテナントを作成または [5 章 vRealize Suite Lifecycle Manager を使用したテナントの移行](#)します。
- IP アドレス管理エンドポイントを移行するには、最初に IP アドレス管理プラグインをインポートして vRealize Automation Cloud Assembly にインストールする必要があります。詳細については、[vRealize Automation Download](#) で使用するための外部 IP アドレス管理プロバイダ パッケージのダウンロードと展開を参照してください。
- 移行評価の実行後、[構成] タブに vRO Azure エンドポイント構成が入力されます。移行を実行する前に、<https://FQDN/migration-ui/#/global-config> リンクで構成を編集し、キーを手動で入力する必要があります。エンドポイント キーを指定せずに移行を試みると失敗します。
- サブスクリプションの場合、vRealize Automation 8 では入力タイプ「payload」はサポートされていません。vRealize Automation 7 サブスクリプションを移行する前に、入力タイプを「Properties」に更新する必要があります。
- vRealize Automation 8.1 では、移行評価時に移行元の証明書を受け入れる必要はありませんでした。このため、移行元の環境を再評価する必要があります。移行元の環境を再評価して、移行元の証明書を受け入れるには、移行アシスタント サービスを使用して、移行元の環境の削除、移行元の環境の再追加、証明書の受け入れ、および移行元の環境の再評価を行う必要があります。
- 移行を進める前に、vRA ライセンスが最新で有効な状態であることを確認してください。

注： vRealize Automation 7.x Advanced ライセンスではパブリック クラウドがサポートされますが、vRealize Automation 8 Advanced ライセンスではサポートされません。移行評価時に、パブリック クラウドのすべてのアイテムにフラグが付けられます。

- 移行の準備として、移行先環境で仮想マシンのメモリがスナップショットから除外されていることを確認します。

移行の制限事項

8

vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールには、移行に関していくつかの制限事項があります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ブループリントの制限事項
- XaaS の制限事項
- ネットワークの制限事項
- 展開の制限事項
- vIDM の制限事項
- エンドポイントの制限事項
- サブスクリプションの制限事項
- カスタム プロパティの制限事項
- クラウド ゾーンの制限事項
- 予約の制限事項
- ビジネス グループの制限

ブループリントの制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールには、次の制限事項があります。

- vRealize Automation 8 では、ブループリントは VMware Cloud Templates と呼ばれます。
- ブループリントのネスト（親ブループリントが子ブループリントを含む状態）は、vRealize Automation 8 ではサポートされません。ネストされたブループリントは、必要に応じてフラットにできます。ただし、ブループリントをフラットにすると、抽象化レイヤーは失われます。
- 移行時に、リース ポリシーは移行されますが、[最小リース日数] フィールドは移行されません。vRealize Automation 8 では、最小リース日数は [最大リース日数] として、最大リース日数は [最大リース合計] として移行されます。

- 移行元のブループリントに予約ポリシーが含まれていて、その予約ポリシーが移行前に削除された場合、予約ポリシーは移行され、VMware クラウド テンプレートにタグ付けされます。ただし、vRealize Automation 8 で VMware クラウド テンプレート（以前のブループリント）のプロビジョニングを試行すると、予約ポリシーがないために失敗し、プロビジョニング中に次のエラー メッセージが表示されます。

「すべての申請要件を満たす配置はありません。現在のプロジェクトに対して適切な配置およびクラウド ゾーンが存在するかどうか、およびこれらが適切にタグ付けされているかどうかを確認してください。」

この問題を修正するには、vRealize Automation 8 で VMware クラウド テンプレートを開き、タグを削除します。

- ブループリントを移行する際、トランスポート ゾーンやネットワーク予約ポリシーなど、ブループリント レベルで設定された NSX 設定は移行アシスタントに無視されます。移行したブループリントが展開されると、仮想マシンと Edge は同じクラスタに配置されます。

XaaS の制限事項

vRealize Automation 8 では、XaaS に次のような制限事項があります。

移行元の環境に複数の XaaS ブループリントまたはカスタム リソースが含まれている場合は、次のように評価および移行が実行されます。

- 同じビジネス グループに属している XaaS ブループリントまたはカスタム リソースは移行評価の際に検出されますが、移行はブロックされます。XaaS ブループリントまたはカスタム リソースは、1 つを除いてすべて公開解除する必要があります。公開中の残りの XaaS ブループリントまたはカスタム リソースは、移行することができます。その後、残りの XaaS ブループリントまたはカスタム リソースを公開し、再移行します。再移行では、以前に移行したコンテンツを保持したまま、新しいコンテンツのみを移行します。
- 同じワークフローに対して XaaS ブループリントを 2 つ構成することはできません。2 つ以上の XaaS ブループリントまたはカスタム リソースが、別々のビジネス グループに属していても、同じワークフローに対して構成されている場合には、移行評価では検出されません。移行すると、最初に移行された XaaS ブループリントまたはカスタム リソースによって、vRealize Automation 8 の XaaS クラウド テンプレートまたはカスタム リソースが作成されます。また、この XaaS ブループリントまたはカスタム リソースは、ワークフローにリンクされます。このため、後続の XaaS ブループリントまたはカスタム リソースは、移行時にワークフローに対して構成されません。
- 同じカスタム リソースを含む複数の XaaS ブループリントで、異なる作成、更新、および削除ワークフローが使用されている場合、移行されるカスタム リソースでは、最初に移行される XaaS ブループリントに関連付けられたワークフローのみが使用されます。移行時に、同じカスタム リソースを含む他のすべての XaaS ブループリントで、カスタム リソースの入出力パラメータの欠落に関するエラーが発生します。

ネットワークの制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールには、ネットワークに関して次の制限があります。

- 設定できる CIDR は 1 つのみで、それに対応する IP アドレス範囲のみを使用できます。
- CIDR とサブネットのサイズが不正確な場合があります。これを修正するには、移行後にネットワーク プロファイルでサイズを編集します。

- vRealize Automation 8 では Infoblox のみがサポートされます。他のサードパーティ製 IP アドレス管理はサポートされません。他のすべてのサードパーティ IP アドレス管理については、ユーザーが vRealize Automation 8 の IP アドレス管理 SDK に移植する必要があります。
- vRealize Automation 8.x への移行前に、移行元と移行先の IP アドレス管理エンドポイントの構成を同一にする必要があります。
- vRealize Automation 8 移行アシスタントは、プライベート ネットワーク コンポーネントを含むブループリントのうち、移行用のプライベート ネットワーク プロファイルが含まれていないものはサポートしていません。
- 展開の移行時には、仮想マシンとオンボーディング済み仮想マシンの両方について仮想マシンの IP アドレスの割り当てがチェックされ、vRealize Automation 8 のオンボーディング済みリソースに対して割り当てられます。ソース インフラストラクチャのみを移行し展開を移行しない場合は、ソース IP アドレスが移行されず、vRealize Automation 8 のオンボーディング済みリソースに対して割り当てられないことが原因で、仮想マシンのプロビジョニングが失敗することがあります。
- vRealize Automation 8 に移行した後、すべての IP アドレス管理情報が移行されます。ただし、展開に外部 ネットワーク プロファイルのみが含まれる場合には、展開の削除などの Day2 操作を行うと、IP アドレスが外部 IP アドレス管理から解放されます。展開にオンデマンド ネットワークが含まれている場合は、IP アドレス管理から IP アドレスを手動で削除する必要があります。回避策として、IP アドレスを IP アドレス管理から削除するサブスクリプションを作成できます。
- ネットワーク プロファイルの移行時に IP アドレスが割り当てられていない場合は、展開の移行時に割り当てられます。

展開の制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタントには、展開に関して次の制限事項があります。

- 展開の移行は、移行が成功しても失敗しても元に戻せません。展開の移行を再試行することはできません。移行サービスによって作成されたプランをオンボーディング サービスで再実行できます。オンボーディング サービスを使用して再実行した場合、展開の所有者、リース、および履歴は移行されません。
- コスト情報の履歴は、展開と共に移行されることはありません。価格設定とコストの詳細については、[価格設定カードとは](#)を参照してください。
- オンデマンド ネットワークがある展開については、IP アドレス管理によって管理されている IP アドレスを含む展開を移行した後、移行した展開を vRealize Automation 8 から削除する場合は、関連付けられている IP アドレスも Infoblox から手動で削除する必要があります。
- vRealize Automation 8 に移行した後、すべての IP アドレス管理情報が移行されます。ただし、展開に外部 ネットワーク プロファイルのみが含まれる場合には、展開の削除などの Day2 操作を行うと、IP アドレスが外部 IP アドレス管理から解放されます。展開にオンデマンド ネットワークが含まれている場合は、IP アドレス管理から IP アドレスを手動で削除する必要があります。回避策として、IP アドレスを IP アドレス管理から削除するサブスクリプションを作成できます。
- 移行元の展開にロード バランサが含まれ、マシンに接続されていない既存のネットワークに対して構成されている場合、外部ネットワークは移行されず、移行時に IP アドレスは割り当てられません。

- 「展開の更新」機能は、vSphere マシン コンポーネントを含む展開でのみ機能します。他のコンポーネント タイプ（ネットワーク、AWS マシン、Azure マシンなど）を含む展開で「展開の更新」アクションを実行すると、展開コンポーネントの再作成が試みられます。
- vRealize Automation 7 は、Azure エンドポイントからデータを収集せず、vRealize Automation 7 外で Azure マシンが削除されたかどうかを判断することもできません。削除された Azure 展開は、vRealize Automation 8 での移行評価時には準備完了と示されますが、移行時には、移行アシスタントが仮想マシンを検出できないため除外されます。
- 移行元の展開でネットワーク タイプが混在している場合、たとえば、NSX-T/NSX-V 用の同じ展開で NAT とルートの両方のネットワークが混在している場合、移行元の展開を移行することはできません。
- 移行元の展開が複数の NSX ロード バランサ コンポーネントを含む場合は、移行されません。
- 移行元環境に、NSX-T で同じブループリントから作成された 1 アームの既存のロード バランサ（既存のネットワークに接続されたオンデマンド ロード バランサ）の展開が複数含まれている場合、移行アシスタントは 1 つのロード バランサのみを作成します。移行された展開の 1 つにのみ、ロード バランサ コンポーネントが表示されます。それ以外の既存の 1 アーム ロード バランサの展開には、ロード バランサ コンポーネントは配置されません。
- 移行前の展開の NAT ネットワークに設定されている IP アドレスは、移行後に割り当て済みとマークされません。ただし、移行されたロード バランサおよび仮想マシンの IP アドレスは、移行後に [インフラストラクチャ] - [ネットワーク] - [IP アドレス] で割り当て済みとマークされます。
- 移行元の vRealize Automation 7 展開に無効なリソースが含まれている場合（たとえば、リソースのプロパティがない場合）、リソースは移行されません。展開内のすべてのリソースが無効な場合は、展開全体が移行されません。
- 既存環境の移行時、オンボーディングされたマシンと移行されたマシンのどちらもクラウド ゾーンにはリンクされません。そのため、これらのマシンは、ストレージ上限の定義の計算には含まれません。
- 単一のマシン コンポーネントと既存のネットワーク コンポーネントを含む展開を移行すると、vRealize Automation は既存のマシンの再作成を実行しますが、「サブネットが必要です」というエラーで失敗します。
- クラウド テンプレートにリンクされている vSphere 展開を移行し、その後にクラウド テンプレートを更新した場合は、展開が失敗します。
- 展開に DNAT ルールが含まれている場合、移行後に再構成 Day 2 アクションを実行することはできません。
- 移行後のクラスタ化されたマシンでは、クラウド テンプレートの反復的な更新を親展開に適用するときに、スケール イン/スケールアウトがサポートされません。
- クラスタ化された展開を移行できるのは、移行元環境が vRealize Automation 7.6 の場合のみです。クラスタ化された展開の移行は、vRealize Automation 7.5、7.4、7.3 の移行元環境ではサポートされません。

VIDM の制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタントには、VIDM に関して次の制限があります。

- VIDM テナント移行はサポートされていません。手動で LCM 内にテナントを作成する必要があります。

エンドポイントの制限事項

vRealize Automation 8 の移行アシスタント ツールには、エンドポイントに関して次の制限事項があります。

- 移行評価を実行すると、[構成] タブに vRO Azure エンドポイントの構成がポピュレートされます。移行の実行前に、構成を編集してキーを手動で入力する必要があります。エンドポイント キーを指定せずに移行すると、移行は失敗します。

注： 移行評価時に vRO Azure エンドポイントが取得されなかった場合は、評価を再実行し、ビジネス グループのエンドポイントが取得されることを確認してください。

- サードパーティの IP アドレス管理エンドポイントの場合、vRealize Automation 8 では Infoblox のみがサポートされます。他のすべてのサードパーティの IP アドレス管理エンドポイントでは、vRealize Automation 8 IP アドレス管理 SDK を使用する必要があります。
- エンドポイントの評価と移行を行うには、エンドポイントに少なくとも 1 つのアクティブな予約が含まれている必要があります。
- vRealize Automation 7 では、あるエンドポイントのどのリージョンまたはコンピューティング リソースが vRealize Automation によって管理できるか（たとえば、ワークロードのプロビジョニング時に使用可能なリージョンまたはコンピューティング リソース）を指定するために、ファブリック グループを作成していました。エンドポイントを移行すると、ファブリック グループによる制限は保持されません。エンドポイントに属するすべてのリージョンまたはコンピューティング リソースを管理できるようになります。
- vRealize Automation 8 では、vSphere 6.x 以降のみがサポートされます。vSphere 5.x 以前では、移行は失敗します。

サブスクリプションの制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールには、サブスクリプションに関して次の制限があります。

注： vRealize Automation のサブスクリプションを移行するには、まず vRealize Orchestrator を移行する必要があります。

また、vRealize Automation 8 では、ワークフローが失敗した場合にサブスクリプションの処理を停止しなくなりました。ワークフローが失敗しても移行は続行され、サポートされていないというエラーが表示されます。

vRealize Automation 8 では、以下のサブスクリプションはサポートされません。

- ビジネス グループ構成
- エンドポイント アクション
- インフラストラクチャ エンドポイントのテスト接続
- IP アドレス管理の IP アドレス ライフサイクル イベントの完了
- マシンのライフサイクル
- オーケストレーション サーバ構成
- オーケストレーション サーバ構成 (XaaS)

- 事後承認
- 事前承認
- リソース再利用完了イベント

カスタム プロパティの制限事項

vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールには、カスタム プロパティに関して次の制限事項があります。

vRealize Automation 8 でサポートされるのは、vSphere のカスタム プロパティ コンポーネントのみです。次のカスタム プロパティの移行はサポートされません。

- コンピューティング リソースで指定されたカスタム プロパティ
- 予約で指定されたカスタム プロパティ
- エンドポイントで指定されたカスタム プロパティ
- 事前定義済みのカスタム プロパティ
 - `_debug_deployment`
 - `_Notes`
 - `NSX.Edge.ApplianceSize`
 - `NSX.Edge.HighAvailability`
 - `NSX.Edge.HighAvailability.PortGroup`
 - `VirtualMachine.Rdp.SettingN`
 - `VirtualMachine.Software%.ISOLocation`
 - `VirtualMachine.Software%.ISOName`
 - `VirtualMachine.Software%.Name`
 - `VirtualMachine.Software%.ScriptPath`
- プロパティ グループ。プロパティ グループ内のカスタム プロパティについては、グループを解除してから、ブループリントに移行します。

注： ブループリントに文字「.」を使用するカスタム プロパティがある場合、この文字は「_」に置換されます。たとえば、`VirtualMachine.Core.Count` は `VirtualMachine_Core_Count` になります。

クラウド ゾーンの制限事項

vRealize Automation 8 では、クラウド ゾーンについて次の制限事項があります。

- ネットワークとストレージの割り当ては、通常のコンピューティング選択階層に従っていません。そのため、複数のビジネス グループにまたがる共有リソースがある場合、エラーが発生して失敗することがあります。このタイプのブループリントの場合、vRealize Automation 8 は共有リソースの配置を見つけることができないため、プロビジョニングは失敗します。これを回避するには、ネットワークに制約タグを追加してからマシンをプロビジョニングします。

予約の制限事項

vRealize Automation 8 には、予約に関して次の制限事項があります。

- vRealize Automation 7.x では、AWS IaaS エンドポイントを使用して、展開ごとに必要に応じてキーペアを作成する操作がサポートされていました。この操作は、vRealize Automation 8 ではサポートされません。
- 移行アシスタントでは、DRS が有効な vSphere クラスタのみがサポートされます。DRS が無効になっている vCenter Server クラスタを移行する際、そのクラスタは vRA 7 ではクラスタとして表示されますが、vRA 8 ではホストとして表示されます。これにより、移行アシスタントがクラスタを検出できないため、移行は失敗します。

ビジネス グループの制限

vRealize Automation 8 移行アシスタントには、ユーザーに関して次の制限事項があります。

ユーザーとグループ

- 移行元の 7.x 環境にあるビジネス グループに、特殊文字（#、!、スペース、& など）を使用するユーザーまたはグループが含まれている場合は、そのテナントのすべてのビジネス グループで移行評価が失敗します。移行元環境のビジネス グループから該当するユーザーまたはユーザー グループを削除して、移行評価を再実行する必要があります。その後、手動でユーザーを vRealize Automation 8 に追加する必要があります。
- 移行元の 7.x 環境にあるビジネス グループに「ローカル ユーザー、カスタム グループ、またはすべてのユーザー」が含まれている場合、これらはスキップされ、移行されません。これらのユーザーとグループは、ビジネス グループを移行した後に、vRealize Automation 8 で手動で追加する必要があります。
- 移行したプロジェクトに必要なグループとユーザーが含まれていることを確認します。含まれていない場合は、展開の移行に進む前にユーザーとグループを追加する必要があります。

既存環境を利用した移行を実行する方法

9

移行アシスタント ツールを使用すると、vRealize Automation 7 のソース インスタンスと vRealize Automation 8 に対して既存環境を利用した移行を実行できます。

vRealize Automation 8 でインフラストラクチャを作成し、それを vRealize Automation 7 インフラストラクチャに合わせるには、移行評価を実行してから、移行元環境を移行する必要があります。移行アシスタント ツールでは、既存の vRealize Automation 8 インフラストラクチャが vRealize Automation 7 移行元環境のインフラストラクチャと比較されます。比較の後、移行ツールは 2 つの環境の間の差異分のみを移行します。

たとえば、1 つのクラウド テンプレートを含む vSphere Users という名前のプロジェクトを vRealize Automation 8 内に作成してあり、vRealize Automation 7 環境では vSphere Users という名前のビジネス グループに 4 つのブループリントが含まれている場合、移行アシスタント ツールは追加の 4 つのブループリントのみを vRealize Automation 8 の vSphere Users プロジェクトに（VMware Cloud Templates として）移行します。

移行をロールバックすると、既存の vRealize Automation 8 インフラストラクチャは、vRealize Automation 7 の移行前の元の状態にロールバックされます。移行された移行元環境のコンテンツのみがロールバックされ、移行前の vRealize Automation 8 のコンテンツはそのまま維持されます。

注： 移行後のクラウド ゾーン タグがロールバック時に削除されることはありません。

既存環境の移行を実行する前に、次の考慮事項を確認します。

[クラウド ゾーン]

AWS と Azure の場合、同じリージョンの基準を使用している予約は 1 つにマージされます。同様に、同じ計算を含むすべての vSphere 予約は 1 つのクラウド ゾーンにマージされます。予約名と予約ポリシーに基づいて、新しいタグがクラウド ゾーンに追加されます。

[IP アドレス範囲]

移行元の環境に含まれる複数の IP アドレス範囲が重複している場合、vRealize Automation 8 への移行は失敗します。

[ネットワーク プロファイル]

オンデマンド ネットワークに対しては、常に新しいネットワーク プロファイルが作成されます。移行の際、移行元環境のネットワーク プロファイルは、regionId、隔離タイプ、ネットワーク、セキュリティ グループ、およびロード バランサが同じである場合に 1 つにマージされます。

[ストレージ プロファイル]

Azure と vSphere の場合、リージョンおよびストレージの説明が同じであるストレージ プロファイルは 1 つにマージされます。vRealize Automation 7 は、AWS のストレージ プロファイルをサポートしていません。

[プロジェクト]

既存のプロジェクトに新しいゾーンが追加されます。プロジェクトにゾーンがある場合、メモリ制限、インスタンス、およびストレージ制限は、既存のプロジェクトと移行元プロジェクトのうち大きい方の数に設定されます。優先度は、両者のうち小さい方に設定されます（値が小さいほど優先度が高い）。すでにユーザーがある場合は、既存のプロジェクトのユーザー ロールも更新されます。

vRealize Automation 7 インフラストラクチャの移行

10

vRealize Automation 7 の移行元環境に対して移行評価を実行した後、個別のビジネス グループを vRealize Automation 8 に移行できます。

インフラストラクチャに関する移行評価の結果は、[移行] - [インフラストラクチャ] タブに一覧表示されます。評価済みのすべてのビジネス グループが、ステータスと共に表示されます。

- 準備完了 - ビジネス グループの移行の準備は完了しています。移行準備のアクションは不要です。
- [準備完了 (警告あり)] - ビジネス グループは準備が完了していますが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性のある問題を修正します。
- 準備ができていません - ビジネス グループは移行の準備ができていません。移行元環境のビジネス グループの詳細を確認し、注意が必要な領域を修正します。
- [評価中] - 移行準備のためにビジネス グループを評価中です。
- [評価が失敗しました] - 評価が失敗しました。テストを再試行してください。

該当する場合は、「準備ができていません」または「準備完了 (警告あり)」と表示されたビジネス グループを修正した後、ビジネス グループを選択し、[更新] をクリックして評価結果テーブル上のステータスを更新します。

vmw vRealize Automation - Migration Assistant

<<

vRA 8 Migration

Getting Started

Source Instances

Infrastructure Migration

Subscriptions Migration

Deployments Migration

Configuration

NSX V2T Migration

Getting Started

Migration Plans

Infrastructure Migration

Select business groups to migrate. All dependencies for the business group will be

MIGRATE ROLLBACK UPDATE

<input type="checkbox"/>	Name	Status
<input type="checkbox"/>	BusinesGroup	⚠ Not ready
<input checked="" type="checkbox"/>	Development	🔄 Migrating
<input type="checkbox"/>	Finance	⚠ Not ready
<input type="checkbox"/>	Quality Engineering	⚠ Not ready

Migrate

Are you sure you want to migrate the selected business groups?

All dependencies for the business groups will be migrated.

Migrating vRealize Automation 7 reservations might reuse and share existing vRealize Automation 8 cloud zones. Shared cloud zones can impact governance by exposing and granting user access to clusters that were previously restricted. It can also impact resource allocation when provisioning new workloads.

Business groups: 1

Migration is a multi-step operation that may take several minutes.



CLOSE

MIGRATE

ビジネス グループを移行するには、「準備ができていません」または「準備完了（警告あり）」ステータスのビジネス グループを 1 つ以上選択し、[移行] をクリックします。移行したビジネス グループを選択して [ロールバック] をクリックすると、移行済みのビジネス グループをロールバックできます。

注： ビジネス グループを評価してから移行するまでに一定の時間が経過している場合は、移行アシスタント ツールによってビジネス グループが再評価されます。ビジネス グループの再評価は、移行において最も時間のかかる作業です。前回の評価以降にソース システムに変更を加えていない場合は、再評価を無効にすることを検討してください。

注： 移行したアイテムに変更を加えた後でロールバックすると、移行後のすべての変更が削除されます。

移行後、ビジネス グループの名前をクリックすると、グループの評価と移行の結果およびステータスを表示できます。

- 移行中 - ビジネス グループを移行しています。
- 移行済み - 移行は正常に完了しました。移行されたビジネス グループは、vRealize Automation 8 環境で表示して使用できます。
- 失敗 - 移行は失敗しました。移行元環境でビジネス グループを確認し、必要に応じて変更してから移行を再試行します。
- 除外済み - 「準備ができていません」として一覧表示されていたビジネス グループは移行されていますが、準備ができていないアイテムは移行されず、「除外済み」として一覧表示されています。準備ができていない、または除外されたアイテムを移行するには、移行する前にその状態を修正し、再評価する必要があります。

<<

vRA 8 Migration

▼

Getting Started

Source Instances

Infrastructure Migration

Subscriptions Migration

Deployments Migration

Configuration

NSX V2T Migration

▼

Getting Started

Migration Plans

Infrastructure Migration > Development

[Development](#)
[MIGRATE](#)
[ROLLBACK](#)
[UPDATE](#)

Status

✓ Migrated

Dependency types

9

Migration started

Feb 18, 2021, 9:58:47 PM

Migration finished

Feb 18, 2021, 10:00:29 PM

Assessment

Migration Results

Dependency Type	Status	Total Items
Blueprint	✓ Migrated	8
Business Group	✓ Migrated	1
Custom Resource	✓ Migrated	3
Custom Resource Action	✓ Migrated	3
Endpoint	✓ Migrated	3
Network Profile	⬅ Excluded	1
Reservation	✓ Migrated	3
Xaas Blueprint	✓ Migrated	5

8 Items

[依存タイプ] をクリックして各項目のステータスを表示すると、移行されたビジネス グループの詳細の確認に進むことができます。移行できなかったサポート対象外のインフラストラクチャ コンポーネントは、「除外済み」と表示されます。

注： vRealize Automation 8.0 以降から vRealize Automation 8.3 にアップグレードする場合は、すべてのソースのすべてのテナントを再評価して移行評価レポートを更新する必要があります。移行されるビジネス グループについては、再評価オプションを有効にして再移行することで、評価レポートを自動的に更新できます。

ビジネス グループの移行が失敗する場合は、トークンが最新でないことが原因である可能性があります。すべての vRA サービスを再起動し、移行を再試行します。vRA サービスの再起動の詳細については、[Starting and Stopping vRealize Automation](#) を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- vRealize Automation 8 でのビジネス グループのマッピング方法
- ブループリントに関する考慮事項
- XaaS に関する考慮事項
- 資格に関する考慮事項
- エンドポイントに関する考慮事項
- 承認ポリシーに関する考慮事項
- ネットワークに関する考慮事項
- 予約に関する考慮事項
- カスタム プロパティに関する考慮事項
- マルチテナントに関する考慮事項

vRealize Automation 8 でのビジネス グループのマッピング方法

ビジネス グループとそのコンポーネントは、vRealize Automation 8 ではマッピング方法が異なります。

表 10-1. vRealize Automation 8 でのビジネス グループのマッピング

vRealize Automation 7 のアイテム	vRealize Automation 8 でのマッピング
ビジネス グループ	プロジェクト
マシン プリフィックス	命名テンプレート
カスタム プロパティ	カスタム プロパティ 注： [Encrypted] フラグと [Show in request] フラグは、vRealize Automation 8 には移行されません。
Active Directory ポリシー/Active Directory コンテナ	Active Directory 統合アカウント/プロジェクト構成 注： vRealize Automation 8 では、Active Directory の移行はサポートされません。移行後に手動で構成する必要があります。
キャパシティ アラートのメール アドレス	該当なし 注： vRealize Automation 8 では、キャパシティ アラートのメール アドレスの移行はサポートされません。
ビジネス グループ マネージャ	プロジェクト管理者
ビジネス グループ ユーザー	プロジェクト メンバー
サポート ユーザー	プロジェクト メンバー
共有アクセス ユーザー	プロジェクト メンバー

ユーザー

ユーザーは、vRealize Automation 7 から vRealize Automation 8 に文字列として移行されます。

vRealize Automation 8 では、移行されたユーザーに対してユーザー検証は実行されません。ユーザーが確実に作業できるようにするには、まず vRealize Automation 8 でユーザーを作成し、その後で移行元環境を移行することをお勧めします。

ルール ベースのオブジェクト資格付与

vRealize Automation 7 では、ユーザーにはユーザー アカウントごとにオブジェクト資格が付与されていました。vRealize Automation 8 では、オブジェクト資格はユーザー ロールごとのルール ベースであるため、同じロールを持つすべてのユーザーに同じオブジェクト資格が割り当てられます。たとえば、同じビジネス グループに割り当てられた同じユーザー ロールを持つ 2 人のユーザーは、すべてのプロジェクト アイテムに対して同じ資格を持ちます。

オブジェクトの資格を管理するには、次のようにします。

- 1 独立したプロジェクトを作成します。
- 2 このプロジェクトに目的のユーザーを割り当てます。
- 3 関連する資格付与オブジェクトをプロジェクトに割り当てます。

注： プロジェクト間で展開を共有することはできません。

ブループリントに関する考慮事項

vRealize Automation 8 では、ブループリントは VMware Cloud Templates と呼ばれます。移行されるすべての vRealize Automation 7 ブループリントは、VMware Cloud Templates として移行されます。

基本的なブループリントのサポート

vRealize Automation 8 では、次のコンポーネント タイプとプロビジョニング方法がサポートされます。

- Amazon EC2
- Azure
- vSphere
- クローン作成
- リンク クローン

注： vRealize Automation 8 では、「現在のスナップショットの使用」はサポートされません。

- OVF

注： OVF サーバの基本認証サーバとプロキシ サーバはサポートされていません。

- 予約ポリシーは制約タグとして移行されます。

コンポーネント プロファイルのサポート

イメージ コンポーネントとサイズ コンポーネントのプロファイルの値セットは、VMware Cloud Templates の入力プロパティとして移行されます。

■ イメージ値セット

- OVF イメージの値セットの場合：プロキシ サーバの構成、およびベーシック認証のユーザー名とパスワードのフィールドは vRealize Automation 8 に移行されません。vRealize Automation 8 移行アシスタントは、イメージの値セットで使用する次のプロビジョニング方法をサポートします。

- クローン作成
- リンク クローン
- OVF

■ サイズ値セット

- ストレージ フィールドは vRealize Automation 8 に移行されません。

プロジェクト間でクラウド テンプレートを移行および共有する方法

vRealize Automation 8 では、プロジェクト間での VMware Cloud Templates の共有がサポートされています。

移行時には、既存のプロジェクトと共有されているブループリントを移行できます。元のプロジェクトがロールバックされた場合でも、プロジェクト間で共有された VMware Cloud Templates は維持できます。元のプロジェクトがロールバックされると、クラウド テンプレートの所有権は別のプロジェクトに移動します。

[共有ブループリントを移行するには、次の手順を実行します。]

手順

- 1 vRealize Automation 7 の移行元環境に対して移行評価を実行します。移行評価を実行する方法の詳細については、[ソース インスタンスでの移行評価の実行](#)を参照してください。
- 2 [インフラストラクチャ] タブを選択し、ブループリントを含む最初のビジネス グループを選択して、[移行] をクリックします。

移行されたブループリントとその関連プロジェクトは、vRealize Automation Cloud Assembly では [デザイン] タブに表示され、vRealize Automation Service Broker ではカタログ アイテムとして表示されます。

- 3 [インフラストラクチャ] タブに戻り、ブループリントを含む追加のビジネス グループを選択して、[移行] をクリックします。

vRealize Automation Cloud Assembly では、クラウド テンプレートは最初に移行されたプロジェクトにのみ属するものとして表示されますが、vRealize Automation Service Broker では、そのクラウド テンプレートが属するすべてのプロジェクトが一覧表示されます。

次のステップ

元のビジネス グループの移行をロールバックし、ブループリントの所有権を移動するには、[インフラストラクチャ] タブに移動し、元のビジネス グループを選択して、[ロールバック] をクリックします。元のビジネス グループをロールバックすると、クラウド テンプレートの所有権は、クラウド テンプレートに関連付けられている残りの移行済

みプロジェクトに自動的に移動します。関連付けられたカスタム フォームがある場合は、ロールバック後も保持されます。

vRealize Automation 6.x のブループリントの使用方法

vRealize Automation 6.x のブループリントを vRealize Automation 8 で使用するには、最初に vRealize Automation 7.4、7.5、または 7.6 に移行する必要があります。

ブループリントを vRealize Automation 7 に移行した後、移行評価を実行すると「準備ができていません - ブループリントで作成ワークフローが使用されています」とマークされます。ブループリントで作成ワークフローが使用されていない場合は、移行元環境でブループリントを開き、何も変更を加えずに保存してから、移行評価を再実行する必要があります。評価を再実行すると、ブループリントは準備完了とマークされます。ブループリントで作成ワークフローが使用されている場合、vRealize Automation 8 に移行することはできません。

VMware Cloud Templates

vRealize Automation 7 のソースから新しい vRealize Automation 8 環境への変更点として、ブループリントオブジェクト タイプが変更され、VMware Cloud Templates という名称になりました。

表 10-2. vRealize Automation 7 のブループリント タイプと vRealize Automation 8 の VMware Cloud Templates の比較

タイプ	vRealize Automation 7	vRealize Automation 8.0
vSphere (vCenter Server) マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.vSphere	Cloud.vSphere.Machine
AWS	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Cloud.AmazonEC2	Cloud.AWS.EC2.Instance
Azure マシン		Cloud.Azure.Machine
汎用仮想マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.Generic	Cloud.Machine
オンデマンドのロード バランサ (NSX)	Infrastructure.Network.LoadBalancer.NSX.OnDemand	Cloud.NSX.LoadBalancer
オンデマンド ルーティング ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド ルーティング ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSX.T.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド NAT ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSX.T.OnDemand.NAT	Cloud.NSX.Network
既存のネットワーク	Infrastructure.Network.Network.Existing	Cloud.vSphere.Network
オンデマンド プライベート ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Private	Cloud.NSX.Network

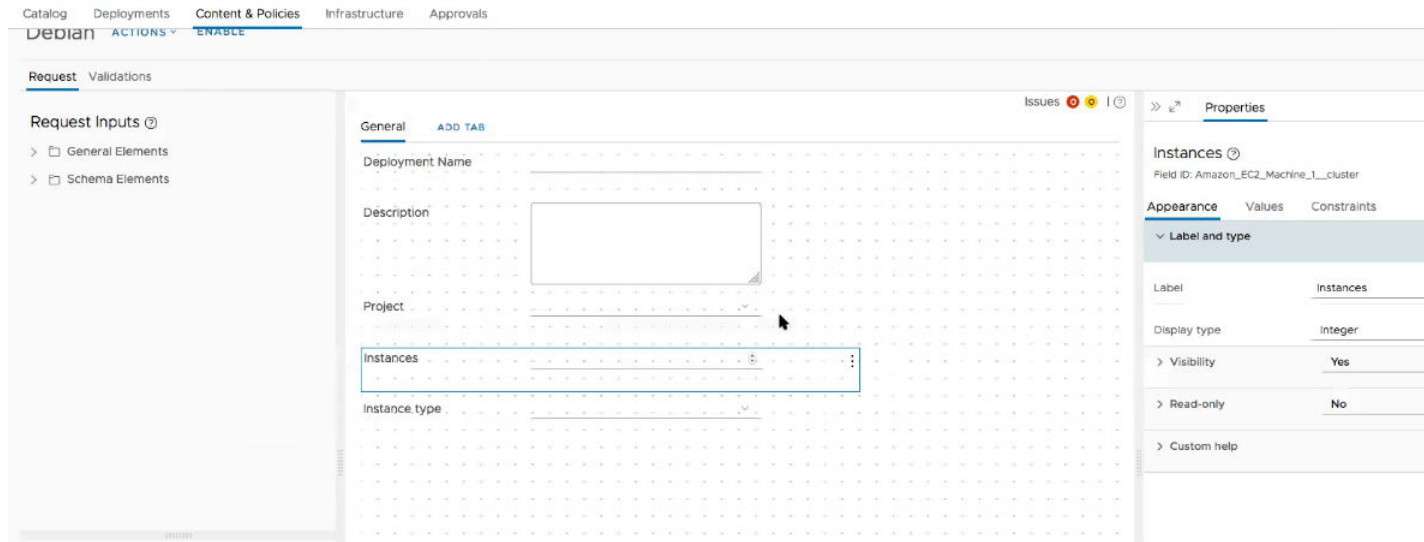
カスタム フォームのブループリント

移行アシスタント ツールを使用して、カスタム フォームのブループリントを vRealize Automation 8 に移行することができます。

カスタム フォームのブループリントを移行するには、最初に vRealize Automation 7 ソース インスタンスに対して移行評価を実行し、次に [インフラストラクチャ] タブでカスタム フォームのブループリントを含むビジネス グループを選択し、[移行] をクリックします。

移行後、Service Broker を開き、[コンテンツとポリシー] タブをクリックします。移行したクラウド テンプレートの横にある 3 つのドットのアイコンをクリックして、カスタム フォーム関連のフィールドを表示およびカスタマイズします。

また、vRealize Orchestrator ワークフローのすべての外部値と、必要な他の式があることを確認します。値または式が見つからない場合は、vRealize Orchestrator ワークフローを再実行します。



コンポーネント プロファイルのブループリント

移行アシスタント ツールを使用して、コンポーネント プロファイルのブループリントを vRealize Automation 8 に移行することができます。

コンポーネント プロファイルのブループリントを移行するには、最初に vRealize Automation 7 ソース インスタンスに対して移行評価を実行し、次に [インフラストラクチャ] タブでコンポーネント プロファイルのブループリントを含むビジネス グループを選択し、[移行] をクリックします。

移行後、Service Broker を開き、[カタログ] タブをクリックします。[申請] をクリックしてコンポーネント プロファイルのフィールドを表示します。たとえば、この移行されたブループリントには、サイズとイメージのフィールドが含まれ、vRealize Automation 7 の値がポピュレートされています。

移行が完了したら、サイズの入力が追加された移行後のテンプレートを確認します。

vm Service Broker

Catalog Deployments Content & Policies Infrastructure Approvals

New Request

Linux Version 1.0

Deployment Name *

Description

Project * Sales

vSphere__vCenter__Machine_1 Medium

Size

vSphere__vCenter__Machine_1 Alpine

Image

SUBMIT CANCEL

NSX のサポート

以下の NSX コンポーネントが VMware Cloud Templates でサポートされています。

サポートされる NSX コンポーネント

- NSX (T/V) のオンデマンド ルーティング ネットワーク
- NSX (T/V) のオンデマンド NAT ネットワーク
- NSX (T/V) のオンデマンド ロード バランサ
- NSX (T/V) の既存のセキュリティ グループ
- NSX V のオンデマンド プライベート ネットワーク
- NSX V のオンデマンド セキュリティ グループ

サポートされない NSX コンポーネント

- NSX (T/V) のアプリケーション隔離
- NSX V の既存のセキュリティ タグ

XaaS に関する考慮事項

XaaS ブループリント

XaaS ブループリントを移行すると、その詳細の内容に応じて 2 つの異なるタイプの VMware Cloud Templates に分類されます。

XaaS ブループリントを移行する前に、関連するワークフローを 8 に移行する必要があります。vRealize Automation 8 では、以下がサポートされます。

- 申請フォーム（カタログ アイテムの詳細および送信された申請の詳細はサポートされません）
- 申請フォームの検索フィールド
- 申請フォームのツリー フィールド
- 条件付きデフォルト値では、1 つの条件のみがサポートされます。条件がネストされている場合、移行時に条件は無視されます。
- 読み取り専用、最小長、最大長の各制約値は、定数値のみがサポートされます。
- フィールドが表示されるかどうかは、フォーム デザイナを使用して、条件付きとしても外部的にも設定できます。

vRealize Automation 8 では、[デザイン キャンバスでコンポーネントとして利用可能にする] 機能がなく、サポートもされません。

関連付けられているワークフローに vRealize Automation 8 との互換性がない場合は、移行の前に XaaS ブループリントをドラフトとして保存し、そのワークフローを除外して移行評価と移行を続行します。

プロビジョニング リソースが定義されていない XaaS ブループリント

プロビジョニング リソースが定義されていない vRealize Automation 7 の XaaS ブループリントは、関連付けられたワークフローおよび元の申請フォーム フィールドを持つ XaaS クラウド テンプレートとして vRealize Automation 8 に移行されます。フィールドの順序は移行時に保持されないため、必要に応じてフィールドを並べ替えます。

プロビジョニング リソースが定義されている XaaS ブループリント

プロビジョニング リソースが定義されている vRealize Automation 7 の XaaS ブループリントは、関連付けられたワークフローおよび元の申請フォームと共に VMware Cloud Templates として vRealize Automation 8 に移行されます。これらは、XaaS ブループリントとして一覧表示されなくなりました。vRealize Automation 8 では、これらの XaaS ブループリントには更新ワークフローと破棄ワークフローを割り当てる必要があります。XaaS ブループリントにこれらが含まれていない場合、vRealize Automation 8 はこれらのワークフロー フィールドにダミー ID を割り当てます。アップグレード後、ダミー ID を置き換えて更新ワークフローと削除ワークフローを割り当てる必要があります。

注： コンポーネント ライフサイクルの拡張可能な機能は、vRealize Automation 8 ではサポートされず、移行評価中にフラグが付けられます。

カスタム リソース

vRealize Automation 8 には、カスタム リソースに関して次の考慮事項があります。

XaaS カスタム リソースを移行する際には、オリジナルのフィールドのみが移行されます。ユーザーが追加したフィールドやタブは移行されないため、移行後に追加する必要があります。カスタム リソースで使用されている vRealize Automation 7 プラグインは、vRealize Automation 8 内にも必要です。vRealize Automation 8 でサポートされていないプラグインがカスタム リソースに含まれている場合は、関連付けられている XaaS ブループリントを公開解除して移行から除外する必要があります。

次のプラグイン、フィールド、ビューは vRealize Automation 8 ではサポートされていません。

- VCAC/VCACCAFE プラグイン
- リソース リスト ビュー
- 送信されたアクションの詳細

リソース マッピングとリソース アクション

リソース マッピングとリソース アクションはサポートされません。vRealize Automation 8 は、これらの基盤となる vRealize Automation 7 コンポーネントをサポートしていません。

vRealize Automation 8 には、仮想マシン タイプをカタログ リソース内の Orchestrator タイプ VC:VirtualMachine にマッピングする、組み込みのワークフローのみが含まれています。

資格に関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、資格に関して次の考慮事項があります。

vRealize Automation 7.x から 8.8 以降に移行する場合、関連付けられているすべてのカタログ アイテムをコンテンツ ソースとしてではなく個別のアイテムとして追加することで、資格はコンテンツ共有ポリシー タイプに移行されます。

資格のあるサービスとして追加されたアイテムとともに既存の資格がソース インスタンスに含まれている場合、移行アシスタントは、そのサービスに属するすべてのカタログ アイテムを識別し、個別のアイテムとして追加することにより、資格ごとにコンテンツ共有ポリシーを作成します。

vRealize Automation 8 での資格付与アクションのマッピング方法

vRealize Automation 8 では、組み込みのリソース マッピングを使用して資格付与アクションが Day 2 ポリシーアクションにマッピングされます。

移行時に、以下の資格付与アクションは以下の Day 2 ポリシー アクションにマッピングされます。この表に記載されていない、これ以外のすべての資格付与アクションは、現時点では移行時にマッピングされません。

表 10-3. 資格付与アクションのマッピング

タイプ	vRealize Automation 7 の資格付与アクション	vRealize Automation 8 の Day 2 ポリシー アクション
展開	リースの変更	Deployment.ChangeLease
	破棄	Deployment.Delete
	所有者の変更	Deployment.ChangeOwner

表 10-3. 資格付与アクションのマッピング（続き）

タイプ	vRealize Automation 7 の資格付与アクション	vRealize Automation 8 の Day 2 ポリシーアクション
マシン	リモート コンソールへの接続	Cloud.vSphere.Machine.Remote.Console
	パワーオフ	Cloud.vSphere.Machine.PowerOff Cloud.AWS.EC2.Instance.PowerOff Cloud.Azure.Machine.PowerOff
	再起動	Cloud.vSphere.Machine.Reboot Cloud.AWS.EC2.Instance.Reboot
	再構成	(部分的サポート) Cloud.vSphere.Machine.Add.Disk Cloud.vSphere.Machine.Remove.Disk Cloud.vSphere.Machine.Resize Cloud.vSphere.Machine.Compute.Disk.Resize Cloud.Azure.Machine.Add.Disk Cloud.Azure.Machine.Remove.DiskCloud.Azure.Machine.Resize Cloud.AWS.EC2.Instance.Add.Disk Cloud.AWS.EC2.Instance.Remove.DiskCloud.AWS.EC2.Instance.Resize Cloud.AWS.EC2.Instance.Compute.Disk.Resize
	シャットダウン	Cloud.vSphere.Machine.Shutdown
	中断	Cloud.vSphere.Machine.Suspend Cloud.Azure.Machine.Suspend
仮想マシン	スナップショットの作成	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Create
	スナップショットの削除	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Delete
	スナップショットに戻す	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Revert
クラウド マシン	破棄	Cloud.Azure.Machine.Delete Cloud.AWS.EC2.Instance.Delete
Azure 仮想マシン	削除	Cloud.Azure.Machine.Delete
	再起動	Cloud.Azure.Machine.Restart
	起動	Cloud.Azure.Machine.PowerOn
	停止	Cloud.Azure.Machine.PowerOff
VMware NSX セキュリティ グループ	再構成	Cloud.NSX.LoadBalancer.LoadBalancer.Reconfigure Cloud.LoadBalancer.LoadBalancer.Reconfigure

エンドポイントに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、エンドポイントに関して次の考慮事項があります。

vRealize Automation 8 は、次のエンドポイントをサポートします。

表 10-4. vRealize Automation 8 でサポートされるエンドポイント

エンドポイント	追加方法
Azure	クラウド アカウントとして追加
AWS	クラウド アカウントとして追加
Google Cloud Platform	クラウド アカウントとして追加
vCenter Server	クラウド アカウントとして追加
NSX-T	クラウド アカウントとして追加
NSX-V	クラウド アカウントとして追加
Puppet	統合アカウントとして追加 注： Puppet エンドポイントを vRealize Automation 8 に移行することはできません。ただし、vRealize Automation 8 では、移行後またはインストール時に Puppet エンドポイントを統合として追加することがサポートされています。
Ansible	統合アカウントとして追加 注： Ansible エンドポイントを vRealize Automation 8 に移行することはできません。ただし、vRealize Automation 8 では、移行後またはインストール時に Ansible エンドポイントを統合として追加することがサポートされています。
IPAM	統合アカウントとして追加
vRealize Orchestrator	統合アカウントとして追加

vRealize Automation 8 does not support these endpoints:

- Hyper-V (スタンドアローン)
- Hyper-V (SCVMM)
- KVM (RHEV)
- NetApp ONTAP
- OpenStack
- プロキシ
- vCloud Air
- vCloud Director
- vROps

- XenServer

Infoblox IP アドレス管理

Infoblox エンドポイントを移行するには、事前に移行先の vRealize Automation 8 環境で、マーケットプレイスから vRealize Automation 8 用の最新の Infoblox プラグインをインストールする必要があります。また、vRealize Automation 8 では、アドレス空間を選択する必要があります。選択されたアドレス空間がない状態でプロファイルを移行しようとする、移行は失敗します。

vRealize Automation 8 では、以下のプロパティやプロパティ グループはサポートされず、移行もされません。

- Infoblox.IPAM.createFixedAddress
- Infoblox.IPAM.createAddressAndPtrRecords
- Infoblox.IPAM.NetworkO.enableDhcp
- Infoblox.IPAM.NetworkO.aliases
- Infoblox.IPAM.createReservation
- Infoblox.IPAM.NetworkO.msDhcpServer
- Infoblox.IPAM.NetworkO.comment
- Infoblox.IPAM.createAddressRecord
- Infoblox.IPAM.NetworkO.enableDns
- Infoblox.IPAM.CustomHostname.ConditionalMachineCustomPropertyO.Value
- Infoblox.IPAM.enableCustomHostname
- Infoblox.IPAM.NetworkO.dnsView
- Infoblox.IPAM.CustomHostame.ConditionalMachineCustomPropertyO.Name
- Infoblox.IPAM.restartIfNeeded
- Infoblox.IPAM.createHostRecord

承認ポリシーに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、承認ポリシーに関して次の考慮事項があります。

vRealize Automation 8 の承認ポリシーでは、以下はサポートされません。

- Post レベル
- 複数のレベル
- 基準のネスト
- イベント サブスクリプションとの AP 統合
- 要求に基づく承認者の決定
- 承認者グループ

■ E メールによる承認

vRealize Automation 8 の承認ポリシーで使用できるのは、cost、requestedBy、cpucount、memory の各基準フィールドのみです。

vRealize Automation 7 の承認ポリシーを vRealize Automation 8 に移行すると、カタログ申請または Day 2 アクション申請タイプとして移行されます。

表 10-5. カタログ申請

vRealize Automation 7 カタログ申請タイプ	vRealize Automation 8 タイプ
サービス カタログ - カタログ アイテム申請	Deployment.Create
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - 仮想マシン	Deployment.Create (resourceType = Cloud.vSphere.Machine)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - クラウド マシン	Deployment.Create (resourceType = Cloud.AWS.EC2.Instance)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - 既存ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.vSphere.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - NSX-T オンデマンド ロード バランサ	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.LoadBalancer)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - NSX-T 既存 NS グループ	Deployment.Create (resourceType = Cloud.SecurityGroup)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - NSX-T オンデマンド NAT ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - NSX-T オンデマンド ルーティング ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - 既存セキュリティ グループ	Deployment.Create (resourceType = Cloud.SecurityGroup)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - オンデマンド ルーティング ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - オンデマンド プライベート ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - オンデマンド ロード バランサ	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)

表 10-5. カタログ申請（続き）

vRealize Automation 7 カタログ申請タイプ	vRealize Automation 8 タイプ
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - オンデマンド NAT ネットワーク	Deployment.Create (resourceType = Cloud.NSX.Network)
サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - Puppet サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - XaaS ブループリント サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - ソフトウェア コンポーネント サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - Ansible サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - 複合ブループリント サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - 既存セキュリティ タグ サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - コンテナ サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - コンテナ ネットワーク サービス カタログ - カタログ アイテム申請 - コンテナ ポリウム	サポート対象外

表 10-6. Day 2 アクション申請

vRealize Automation 7 アクション タイプ	vRealize Automation 8 アクション タイプ
リソース アクション申請 - リースの変更 - 展開	Deployment.ChangeLease
リソース アクション申請 - セキュリティの変更 - 展開	Cloud.vSphere.Machine.Change.SecurityGroup
リソース アクション申請 - スナップショットの作成 - 仮想マシン	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Create
リソース アクション申請 - スナップショットに戻す - 仮想マシン	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Revert
リソース アクション申請 - スナップショットの削除 - 仮想マシン	Cloud.vSphere.Machine.Snapshot.Delete
リソース アクション申請 - 削除 - Azure 仮想マシン	Cloud.Azure.Machine.Delete
リソース アクション申請 - 破棄 - クラウド マシン	Cloud.AWS.EC2.Instance.Delete
リソース アクション申請 - 破棄 - 展開	Deployment.Delete
リソース アクション申請 - 破棄 - 仮想マシン	Cloud.vSphere.Machine.Delete
リソース アクション申請 - パワーオフ - マシン	Cloud.vSphere.Machine.PowerOff Cloud.AWS.EC2.Instance.PowerOff
リソース アクション申請 - パワーオン - マシン	Cloud.vSphere.Machine.PowerOn Cloud.AWS.EC2.Instance.PowerOff
リソース アクション申請 - 再起動 - マシン	Cloud.AWS.EC2.Instance.Reboot Cloud.vSphere.Machine.Reboot
リソース アクション申請 - 再構成 - VMware NSX ロード バランサ	Cloud.NSX.LoadBalancer.LoadBalancer.Reconfigure
リソース アクション申請 - 再プロビジョニング - マシン	Cloud.AWS.EC2.Instance.Reprovision Cloud.vSphere.Machine.Reprovision
リソース アクション申請 - 再起動 - Azure 仮想マシン	Cloud.Azure.Machine.Restart
リソース アクション申請 - シャットダウン - マシン	Cloud.vSphere.Machine.Shutdown

表 10-6. Day 2 アクション申請（続き）

vRealize Automation 7 アクション タイプ	vRealize Automation 8 アクション タイプ
リソース アクション申請 - 起動 - Azure 仮想マシン	Cloud.Azure.Machine.PowerOn
リソース アクション申請 - 停止 - Azure 仮想マシン	Cloud.Azure.Machine.PowerOff
リソース アクション申請 - サスペンド - マシン	Cloud.vSphere.Machine.Suspend
リソース アクション申請 - リースの変更 - マシン リソース アクション申請 - 再構成のキャンセル - マシン サービス カタログ - リソース アクション申請 リソース アクション申請 - NAT ルールの変更 - VMware NSX ネットワーク リソース アクション申請 - NAT ルールの変更 - VMware NSX-T ネットワーク リソース アクション申請 - 所有者の変更 - 展開 リソース アクション申請 - 破棄 - コンテナ リソース アクション申請 - 破棄 - コンテナ ネットワーク リソース アクション申請 - ボリュームの破棄 - コンテナ ボリューム リソース アクション申請 - 再構成の実行 - マシン リソース アクション申請 - 期限切れ - 展開 リソース アクション申請 - 期限切れ - マシン リソース アクション申請 - ツールのインストール - マシン リソース アクション申請 - パブリック IP アドレスの管理 - Azure 仮想マシン リソース アクション申請 - パワーサイクル - マシン リソース アクション申請 - 再構成 - マシン リソース アクション申請 - VDI の登録 - 仮想マシン リソース アクション申請 - カタログから削除 - Azure 仮想マシン リソース アクション申請 - 再開 - 展開 リソース アクション申請 - スケール イン - 展開 リソース アクション申請 - スケール アウト - 展開 リソース アクション申請 - 開始 - コンテナ リソース アクション申請 - 停止 - コンテナ リソース アクション申請 - 登録解除 - マシン リソース アクション申請 - VDI の登録解除 - 仮想マシン リソース アクション申請 - 登録解除 - VMware NSX ネットワーク リソース アクション申請 - 登録解除 - VMware NSX-T ネットワーク	サポート対象外

ネットワークに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、NSX、ロード バランサ、セキュリティ グループに関して次の考慮事項があります。

NSX (T/V) に関する考慮事項

注： これらの考慮事項は、NSX を使用した vSphere ネットワークにのみ適用されます。

vRealize Automation 8 移行アシスタントは、プライベート ネットワーク コンポーネントを含むブループリントのうち、移行用のプライベート ネットワーク プロファイルが含まれていないものはサポートしていません。

vRealize Automation 8 では、すべてのオンデマンド NSX-T ネットワークで新しい Tier-1 論理ルーターが作成され、すべてのオンデマンド NSX-V ネットワークで新しい Edge が作成されます。

NSX のコンポーネントを vRealize Automation 7 から vRealize Automation 8 に移行すると、コンポーネントの名前は次のように変更されます。

表 10-7. ブループリント コンポーネント

vRealize Automation 7 のコンポーネント	vRealize Automation 8 のコンポーネント
NSX-(V/T) のオンデマンド NAT ネットワーク	Cloud.NSX.Network (networkType: outbound) + Cloud.NSX.Gateway (NAT ルールが 7 BP で指定されている場合のみ)
NSX-(V/T) のオンデマンド ルーティング ネットワーク	Cloud.NSX.Network (networkType: routed)
NSX-(V/T) のオンデマンド LB	Cloud.NSX.LoadBalancer
NSX-V のオンデマンド プライベート ネットワーク	Cloud.NSX.Network (networkType: private)
NSX-(V/T) の既存のセキュリティ グループ	Cloud.SecurityGroup
既存のネットワーク	Cloud.vSphere.Network
NSX-V のオンデマンド セキュリティ グループ NSX-V の既存のセキュリティ タグ	サポート対象外。

表 10-8. 展開コンポーネント

vRealize Automation 7 のコンポーネント	vRealize Automation 8 のコンポーネント
NSX-(V/T) のオンデマンド NAT ネットワーク	ネットワーク コンポーネント (networkType: outbound)
NSX-(V/T) のオンデマンド ルーティング ネットワーク	ネットワーク コンポーネント (networkType: routed)
NSX-(V/T) のオンデマンド LB	Cloud.NSX.LoadBalancer
NSX-V のオンデマンド プライベート ネットワーク	ネットワーク コンポーネント (networkType: private)
NSX-(V/T) のセキュリティ グループ	SecurityGroup コンポーネント (type: Existing)
既存のネットワーク	ネットワーク コンポーネント (networkType: existing)

表 10-9. エンドポイント マッピング

vRealize Automation 7 でのエンドポイント	vRealize Automation 8 でのエンドポイント
NSX-V	NSX-V 注： NSX-V エンドポイントは vCenter Server にリンクされます。
NSX-T	NSX-T 注： NSX-T エンドポイントは vCenter Server にリンクされます (1:N のマッピング)。
NSX-T および NSX-V	vCenter Server (ハイブリッド) 注： 3 つのエンドポイントすべてが移行されますが、vCenter Server にリンクされるのは NSX-T エンドポイントのみです。必要な場合は、手動で追加のリンクを作成する必要があります。

ネットワーク プロファイル

vRealize Automation 7 の移行元環境に予約とネットワーク プロファイルの両方が含まれている場合は、移行時にマージされて vRealize Automation 8 では 1 つのネットワーク プロファイルになります。

表 10-10. ネットワーク プロファイルの変換

名前	vRealize Automation 7	vRealize Automation 8
外部プロファイル	予約の中でネットワークに割り当てられます。	同等の CIDR が 8.x のサブネットを設定されます。IP アドレス範囲がサブネットを設定されます。
ルーティング プロファイル	外部プロファイルにリンクされます。 予約の中で外部プロファイルが分散論理ルーターまたは Tier-0 論理ルーターで設定されます。	サブネットが隔離タイプであるネットワーク プロファイルが別途作成されます。 同等の CIDR (vRealize Automation 7 のルーティング プロファイルによる)とサブネットが決定され、ネットワーク プロファイルに設定されます。 サブネット サイズは、vRealize Automation 7 のサブネット マスクによって決定されます。

表 10-10. ネットワーク プロファイルの変換（続き）

名前	vRealize Automation 7	vRealize Automation 8
NAT プロファイル	外部プロファイルにリンクされます。 予約の中で外部プロファイルが分散論理ルーターまたは Tier-0 論理ルーターで設定されます。	サブネットが隔離タイプであるネットワークプロファイルが別途作成されます。 同等の CIDR（vRealize Automation 7 の NAT プロファイルによる）とサブネットが決定され、ネットワーク プロファイルに設定されます。 デフォルトでは、サブネット サイズは 29 です。 vRealize Automation 7 で DHCP が有効にされていると同時に固定 IP 範囲も設定されている場合、vRealize Automation 8 では IP アドレス範囲として DHCP と固定 IP が割り当てられます。
プライベート プロファイル	外部プロファイルにリンクされます。 予約の中で外部プロファイルが分散論理ルーターまたは Tier-0 論理ルーターで設定されます。	サブネットが隔離タイプであるネットワークプロファイルが別途作成されます。 同等の CIDR（vRealize Automation 7 の プライベート プロファイルによる）とサブネットが決定され、ネットワーク プロファイルに設定されます。 デフォルトでは、サブネット サイズは 29 です。

注： 外部 IP アドレス管理は、すべてのネットワーク プロファイルでサポートされます。ただし、CIDR は設定されず、IP アドレス管理の IP アドレス ブロックが範囲として設定されます。

ネットワーク プロファイルを作成するときは、アドレス空間と既存の IP アドレス ブロックを選択する必要があります。

[サードパーティ IP アドレス管理を使用した NAT ネットワーク プロファイル]

vRealize Automation 7 では、アドレス空間を選択する必要はありませんでした。ネットワーク プロファイルで指定されていたのは IP アドレス範囲のみです。展開時に、新しいオンデマンド アドレス空間が作成されて IP アドレス範囲が設定されました。

vRealize Automation 8 では、ネットワーク プロファイルを作成するときにアドレス空間と既存の IP アドレス ブロックを選択する必要があります。

セキュリティ グループ

vRealize Automation 8 では、ネットワーク コンポーネントがある場合にのみセキュリティ グループがリンクされます。仮想マシンがネットワーク コンポーネントに接続されていない場合、ブループリントと展開の移行時にデフォルトでネットワーク コンポーネントが作成されます。

vRealize Automation 7 のブループリントでは、ネットワーク コンポーネントをリンクすることなく、固定 IP アドレスが NIC に割り当てられます。vRealize Automation 8 への移行時には、これらのブループリントに対してデフォルトのネットワーク コンポーネントが作成されます。

Azure ネットワーク

vRealize Automation 8 では、次のコンポーネントを含む Azure ブループリントがサポートされます。

- セキュリティ グループ
- vNET およびサブネット

注： vRealize Automation 8 では、ロード バランサを使用する Azure ブループリントはサポートされません。新しいロード バランサを作成する必要があります。

予約に関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、予約に関して次の考慮事項があります。

vRealize Automation 8 の予約では、コンピューティング ポリシーにはクラウド ゾーン、ストレージ ポリシーにはストレージ プロファイル、ネットワーク ポリシーにはネットワーク プロファイルが使用されます。これらの構成要素は、タグを使用して相互にリンクされます。vRealize Automation 8 では、クラウド ゾーンは1つ以上のプロジェクトにリンクされます。

予約の移行時には、以下のことが行われます。

- 1 コンピューティング コンポーネントはクラウド ゾーンとして移行され、タグが割り当てられます。
- 2 ストレージ コンポーネントは1つまたは複数のストレージ プロファイルとして移行され、作成済みのタグが割り当てられます。
- 3 ネットワーク コンポーネントはネットワーク プロファイルとして移行され、作成済みのタグが割り当てられます。
- 4 クラウド ゾーンはプロジェクトに接続されます。

注： 予約に予約ポリシーが含まれている場合は、移行後のポリシーを表す機能タグもクラウド ゾーンに割り当てられます。

vRealize Automation 8 では、デフォルトのストレージ プロファイルも導入されています。移行された予約に複数のストレージ プロファイルが含まれている場合、vRealize Automation 8 では1つがデフォルトのストレージ プロファイルとして割り当てられます。プロビジョニングの前に、適切なストレージ プロファイルがデフォルトとして選択されていることを確認します。選択されていない場合は、予約の下で目的のストレージ プロファイルの横にあるチェックボックスを選択します。

注： vRealize Automation 7 では、Amazon の予約でストレージ配置ポリシーを構成することはできません。vRealize Automation 8 移行アシスタント ツールでは、Amazon の予約を移行するときにストレージ プロファイルは作成されません。

注： 有効なストレージ パスのみが vRealize Automation 8 に移行されます。無効なストレージ パスは vRealize Automation 8 に移行されません。

最適化された予約

移行時に、予約は少数のクラウド ゾーンへと統合されます。

予約は、最適化のための計算に基づき、可能な限り少数のクラウド ゾーン、ストレージ プロファイル、およびネットワーク プロファイルへと統合されます。たとえば、同じコンピューティング リソースを使用する 5 つの予約がある場合、これらの予約は移行後の vRealize Automation 8 では 1 つのクラウド ゾーンへと統合されます。

- 同じコンピューティング リソースを使用する複数の予約は、1 つのクラウド ゾーンとして移行されます。
- 同じストレージ パスを使用する複数の予約は、1 つのストレージ プロファイルとして移行されます。
- 同じネットワークを使用する複数の予約は、1 つのネットワーク プロファイルとして移行されます。

カスタム プロパティに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、カスタム プロパティに関して次の考慮事項があります。

これらのカスタム プロパティは、ブループリントの移行時に入力プロパティ パラメータとして移行され、クラウド テンプレートのコンポーネント フィールドにリンクされます。

- VirtualMachine.CPU.Count
- VirtualMachine.Memory.Size
- VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDNS
- VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDNS
- VirtualMachine.NetworkN.Gateways
- VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix
- VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes
- VirtualMachine.NetworkN.Address
- VirtualMachine.NetworkN.AddressType
- VirtualMachine.NetworkN.NetworkProfileName
- VirtualMachine.NetworkN.ProfileName
- VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask
- 展開リソースに関連付けられたカスタム プロパティ。これらのカスタム プロパティは、vRealize Automation 8 では動作しないか意味を持たない可能性のある 7.x のプロパティと共に移行されます。

その他すべてのカスタム プロパティは、クラウド テンプレート スキーマの一部として移行されます。

VMware Cloud Templates で定義された各プロパティは、文字列、ブール値、10 進数、オブジェクト、配列、および数値の各型をサポートします。

プロパティ グループに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、プロパティ グループに関して次の考慮事項があります。

プロパティ グループは、クラウド テンプレートのカスタマイズに使用できるカスタム プロパティのグループです。プロパティ グループを vRealize Automation 7.x から vRealize Automation 8.x に移行する場合は、次の考慮事項を確認してください。

- vRA 7.x では、プロパティ グループは1つのテナントのみにリンクすることもテナント間で共有することもできます。これらのプロパティ グループを vRA 8.x に移行すると、1つのテナントのみにリンクされ、テナントの名前がプロパティ グループ名に付加されて <propertygroupname>_<tenantname> のようになります。グループがテナント間で共有されている場合、vRA 8.x では名前は変更されずにそのまま移行されます。
- 定数プロパティ ([申請に表示] が false) を含むプロパティ グループは、定数タイプのプロパティ グループ <propertygroupname>_constants として移行されます。編集可能なプロパティ ([申請に表示] が true) を含むプロパティ グループは、入力タイプのプロパティ グループ <propertygroupname>_inputs として移行されます。プロパティ グループに定数プロパティと編集可能なプロパティの両方が含まれている場合、移行時にプロパティ グループは 2 つのプロパティ グループ (<propertygroupA>_constants と <propertygroupA>_inputs) に分割されます。ただし、プロパティ グループに vRO アクションに基づくドロップダウンのプロパティが含まれている場合は、プロパティ グループは 2 つのプロパティ グループに分割されません。
- 移行するプロパティ グループと同じ名前のプロパティ グループが vRealize Automation 8.x 環境に含まれている場合、移行されたプロパティ グループの名前には <propertygroupname>_3439553 のようにランダムな数字が付加されます。
- vRealize Automation 8 では、プロパティ名の中で「-」と「.」は使用できません。これらの文字は、移行時に「_」に置き換えられます。
- クラウド テンプレートまたはコンポーネントで直接使用されているカスタム プロパティは、プロパティ グループよりも優先されます。
- vRealize Automation 8.x では、すべてのプロパティ データ タイプがサポートされます。ただし、vRealize Automation でこれらのデータ タイプ内のすべての機能がサポートされるわけではありません。サポートされない機能は、移行評価レポートでフラグが付けられます。
- vRealize Automation 8.x では、プロパティが表示される順序は移行されません。

表 10-11. サポートされるプロパティ グループ属性

vRA 7.x の属性	vRA 8.x でのマッピング
プロパティ グループ属性	
名前	表示名
ID	名前
可視性：すべてのテナント	該当なし
可視性：このテナント	可視性：このテナント
説明	説明
プロパティ グループのプロパティの属性	
名前	名前

表 10-11. サポートされるプロパティ グループ属性 (続き)

vRA 7.x の属性		vRA 8.x でのマッピング
値		デフォルト値
暗号化済み		暗号化済み
申請に表示 : true		入力タイプのプロパティ グループの一部として作成されます。このプロパティのプロパティ定義が存在する場合は、定義が適用されます。
申請に表示 : false		定数タイプのプロパティ グループの一部として作成されます。このプロパティに対してプロパティ定義がある場合、その定義は無視されます。
プロパティ定義の属性		
名前		名前
ラベル		表示名
可視性 : すべてのテナント		該当なし
可視性 : このテナント		可視性 : このテナント
説明		説明
表示順序		該当なし
プロパティ定義のデータ タイプの属性		
ブール値	表示方法 : チェックボックス	表示方法 : チェックボックス
	表示方法 : はい/いいえ	該当なし
日時	必須 : はい 必須 : いいえ	必須 : はい 必須 : いいえ
	最小値 最大値	該当なし
	表示方法 : 日時ピッカー	該当なし
10 進数	必須 : はい 必須 : いいえ	該当なし
	最小値 最大値	最小値 最大値
	増分	該当なし
	表示方法 : ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効 : true/静的リスト : true	該当なし
	表示方法 : ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効 : false/静的リスト : true	表示方法 : ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効 : false/静的リスト : true
	表示方法 : ドロップダウン/外部値	表示方法 : ドロップダウン/外部値

表 10-11. サポートされるプロパティ グループ属性 (続き)

vRA 7.x の属性		vRA 8.x でのマッピング
	表示方法：スライダ	該当なし
	表示方法：テキストボックス	表示方法：テキストボックス
整数	必須：はい 必須：いいえ	該当なし
	最小値 最大値	最小値 最大値
	増分	該当なし
	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：true/静的リスト：true	該当なし
	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：false/静的リスト：true	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：false/静的リスト：true
	表示方法：ドロップダウン/外部値	表示方法：ドロップダウン/外部値
	表示方法：スライダ	該当なし
	表示方法：テキストボックス	表示方法：テキストボックス
セキュリティで保護された文字列	必須：はい 必須：いいえ	必須：はい 必須：いいえ
	表示方法：確認が必要なパスワード	該当なし
	表示方法：検証付きテキストボックス	表示方法：検証付きテキストボックス
	表示方法：検証なしのテキストボックス	表示方法：検証なしのテキストボックス
文字列	必須：はい 必須：いいえ	必須：はい 必須：いいえ
	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：true/静的リスト：true	該当なし
	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：false/静的リスト：true	表示方法：ドロップダウン/静的リスト/カスタム値入力有効：false/静的リスト：true
	表示方法：ドロップダウン/外部値	表示方法：ドロップダウン/外部値
	表示方法：E メール	該当なし
	表示方法：ハイパーリンク	該当なし
	表示方法：テキストエリア	該当なし
	表示方法：検証付きテキストボックス	表示方法：検証付きテキストボックス
	表示方法：検証なしのテキストボックス	表示方法：検証なしのテキストボックス

マルチテナントに関する考慮事項

vRealize Automation 8 には、マルチテナントに関して次の考慮事項があります。

複数のテナントを vRealize Automation 8 の 1 つのテナントに移行する場合は、次の点を考慮してください。

- サブスクリプション - 既存のサブスクリプションと同じ名前の 2 つ目のサブスクリプションを移行すると、条件とワークフローは 2 つ目のサブスクリプションの基準に従って更新されます。
- ブループリント - 同じ名前の 2 つ目のブループリントを別のテナントから移行すると、そのブループリントはスキップされ、最初に移行されたブループリントが両方のテナントのビジネス グループで共有されます。
- カスタム リソース - 1 つ目のカスタム リソースを移行するときに、移行アシスタントはワークフローの作成、更新、破棄、および Day 2 アクション（該当する場合）の基準を作成します。同じ名前の 2 つ目のカスタム リソースを移行すると、Day 2 アクションだけが更新されます。

vRealize Automation 7 サブスクリプションの移行

11

vRealize Automation 7 の移行元環境に対して移行評価を実行した後、個別のサブスクリプションを vRealize Automation 8 に移行できます。

サブスクリプションに関する移行評価の結果は、[移行] - [サブスクリプション] タブに一覧表示されます。評価済みのすべてのサブスクリプションが、ステータスと共に表示されます。

- 準備完了 - サブスクリプションの移行の準備は完了しています。移行準備のアクションは不要です。
- 準備完了（警告あり） - サブスクリプションは準備完了ですが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性がある問題を修正します。
- 準備ができていません - サブスクリプションは移行の準備ができていません。移行元環境のサブスクリプションの詳細を確認し、注意が必要な領域を修正します。
- 評価中 - サブスクリプションは移行準備のために評価中です。
- [評価が失敗しました] - 評価が失敗しました。テストを再試行してください。

該当する場合は、「準備ができていません」または「準備完了（警告あり）」と表示されたサブスクリプションを修正した後、サブスクリプションを選択し、[更新] をクリックして評価結果テーブル上のステータスを更新します。また、評価レポートでは、サポートされていないサブスクリプション条件にフラグが付けられます。そのようなサブスクリプションは、移行の前にサポートされていない条件を修正し、サブスクリプションの再評価を行う必要があります。

vmw vRealize Automation - Migration Assistant

<<

vRA 8 Migration

Getting Started

Source Instances

Infrastructure Migration

Subscriptions Migration

Deployments Migration

Configuration

NSX V2T Migration

Getting Started

Migration Plans

Subscriptions Migration

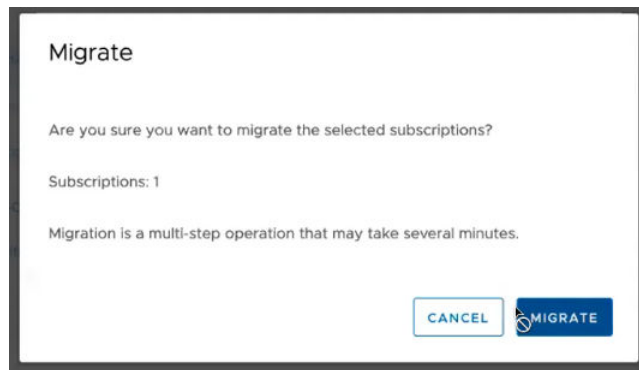
Select subscription to migrate.

MIGRATE

ROLLBACK

UPDATE

<input type="checkbox"/>	Name	Status	Source Account
<input checked="" type="checkbox"/>	deployment.operation.comple ^{ed}	➡ Ready	064
<input type="checkbox"/>	deployment.operation.requeste ^d	➡ Ready	064



サブスクリプションを移行するには、「準備ができていません」または「準備完了（警告あり）」ステータスのサブスクリプションを1つ以上選択し、[移行] をクリックします。

注： サブスクリプションを移行するには、少なくとも1つの移行済みのビジネス グループが、あらかじめ vRealize Automation 8 内に必要です。サブスクリプションに vRO ワークフローへの依存関係がある場合、その依存関係が事前に移行されていないと移行は失敗します。

移行後、サブスクリプションの名前をクリックすると、サブスクリプションの評価と移行の結果およびステータスを表示できます。

- 移行中 - サブスクリプションを移行しています。

- 移行済み - 移行は正常に完了しました。移行されたサブスクリプションは、vRealize Automation 8 環境で表示して使用できます。
- 失敗 - 移行は失敗しました。移行元環境でサブスクリプションを確認し、必要に応じて変更してから移行を再試行します。
- 除外済み - 「準備ができていません」として一覧表示されていたサブスクリプションは移行されていますが、準備ができていないアイテムは移行されず、「除外済み」として一覧表示されています。

移行されたサブスクリプションは、[Cloud Assembly] - [拡張性] に一覧表示されます。移行されたサブスクリプションを [拡張性] タブで開くと、関連付けられている条件と ID が一覧表示されます。

注： vRealize Automation 7 のサブスクリプションに「OR」条件が含まれている場合、そのサブスクリプションが vRealize Automation 8 に移行されると、同じワークフローにイベントを送信する 2 つのサブスクリプションになります。

移行したサブスクリプションを選択して [ロールバック] をクリックすると、移行済みのサブスクリプションをロールバックできます。

注： 移行したアイテムに変更を加えた後でロールバックすると、移行後のすべての変更が削除されます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- サブスクリプションのマッピングと考慮事項

サブスクリプションのマッピングと考慮事項

vRealize Automation 7 から vRealize Automation 8 に移行する場合、サブスクリプションはそれぞれ異なる方法でマッピングおよびサポートされます。

vRealize Automation 8 で vRealize Automation 7 サブスクリプションを使用する方法については、マッピングテーブルを確認してください。

表 11-1. vRealize Automation 8 サブスクリプション マッピング

vRealize Automation 7 サブスクリプション	vRealize Automation 8 での処理	考慮事項
ブループリント コンポーネントの完了	展開リソースの完了	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ componentId ■ blueprintId ■ deploymentId
ブループリント コンポーネントの申請	展開リソースの申請	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ componentId ■ blueprintId ■ deploymentId

表 11-1. vRealize Automation 8 サブスクリプション マッピング (続き)

vRealize Automation 7 サブスクリプション	vRealize Automation 8 での処理	考慮事項
ブループリント構成	ブループリント構成	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId サポートされるスキーマ： <ul style="list-style-type: none"> ■ name ■ eventType ■ status ■ ID ■ description
ブループリント申請の完了	展開の完了	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId ■ deploymentId
ブループリントの申請	展開の申請	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId ■ deploymentId
カタログ申請の完了	展開の完了	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId ■ deploymentId
カタログ申請の受信	展開の申請	該当なし
コンポーネント アクションの完了	展開リソース アクションの完了	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ componentId ■ blueprintId ■ deploymentId
コンポーネント アクションの申請	展開リソース アクションの申請	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ componentId ■ blueprintId ■ deploymentId
展開アクションの完了	展開アクションの完了 (deployment.action.post)	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId ■ deploymentId サポートされるスキーマ： <ul style="list-style-type: none"> ■ actionName ■ deploymentId ■ statusId ■ failureMessage

表 11-1. vRealize Automation 8 サブスクリプション マッピング (続き)

vRealize Automation 7 サブスクリプション	vRealize Automation 8 での処理	考慮事項
展開アクションの申請	展開アクションの申請 (deployment.action.pre)	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ blueprintId ■ deploymentId サポートされるスキーマ： <ul style="list-style-type: none"> ■ actionName ■ deploymentId ■ ID
EventLog デフォルト イベント	EventLog (broker.event.log)	該当なし
マシン プロビジョニング	ライフサイクル状態イベント 特定のライフサイクル状態とイベント トピックの詳細については、ライフサイクル状態イベントに関する下記の表を参照してください。	vRealize Automation 8 でのサポート条件： <ul style="list-style-type: none"> ■ lifecycleState ■ componentId ■ blueprintName ■ componentTypeid ■ endpointId

ライフサイクル状態イベント

マシン プロビジョニング vRealize Automation 7 サブスクリプションは、さまざまな状態、イベント、およびイベント トピックをサポートする vRealize Automation 8 のライフサイクル状態イベント サブスクリプションに変換されます。

表 11-2.

状態	イベント	イベント トピック
[VMPSMasterWorkflow32]		
Building Machine		コンピューティング プロビジョニング
DeactivateMachine		コンピューティングの削除
Disposing	<ul style="list-style-type: none"> ■ OnDisposeComplete (プロビジョニング) ■ OnDisposeTimeout (プロビジョニング) ■ OnUnregisterMachine (プロビジョニング) 	コンピューティングの削除
MachineActivated	OnCatalogRegistrationComplete (プロビジョニング)	コンピューティング プロビジョニング後
MachineProvisioned		コンピューティング プロビジョニング後
Requested	OnProvisionMachine (プロビジョニング)	コンピューティング プロビジョニング

表 11-2. (続き)

状態	イベント	イベント トピック
UnprovisionMachine		コンピューティングの削除
WaitingToBuild		コンピューティング プロビジョニング
[クローン ワークフロー]		
BuildComplete		コンピューティング プロビジョニング後
CloneMachine	<ul style="list-style-type: none"> ■ OnCloneMachineComplete ■ OnCloneMachineTimeout 	コンピューティング プロビジョニング
CustomizeMachine	<ul style="list-style-type: none"> ■ OnCustomizeMachineComplete ■ OnCustomizeMachineTimeout 	コンピューティング プロビジョニング
CustomizeOS	<ul style="list-style-type: none"> ■ OnCustomizeOS ■ OnCustomizeOSComplete ■ OnCustomizeOSTimeout 	コンピューティング プロビジョニング

vRealize Automation 7 展開の移行

12

vRealize Automation 7 の移行元環境に対して移行評価を実行した後、展開を vRealize Automation 8 に移行できます。

ビジネス グループの展開の移行評価の結果は、[移行] - [展開] タブに一覧表示されます。評価済みのすべての展開が、ステータスと共に表示されます。

- 準備完了 - 展開の移行の準備は完了しています。移行準備のアクションは不要です。
- 準備完了（警告あり） - 展開は準備完了ですが、確認が必要です。移行に影響を与える可能性がある問題を修正します。
- 準備ができていません - 展開は移行の準備ができていません。移行元環境の展開の詳細を確認し、注意が必要な領域を修正します。
- 評価中 - 展開は移行準備のために評価中です。
- [評価が失敗しました] - 評価が失敗しました。テストを再試行してください。

必要に応じて展開を変更した後、展開を再評価するためにビジネス グループを選択し、[更新] をクリックして、評価結果テーブル上のステータスを更新します。

注： 展開を移行するためには、関連付けられているビジネス グループの vRealize Automation 8 への移行が事前に成功している必要があります。これは、展開の評価ステータスとは関係ありません。

[必須：] 展開を移行する前に、vRealize Automation 8 環境のスナップショットを作成する必要があります。

展開を移行するには、[展開] タブで任意のステータスを持つ 1 つ以上のビジネス グループを選択し、[移行] をクリックします。準備ができていない展開は移行から除外されます。

注： 展開の移行は、移行が成功しても失敗しても元に戻せません。展開の移行を再試行することはできません。

移行後、ビジネス グループの名前をクリックすると、グループの展開の評価と移行の結果およびステータスを表示できます。

- 移行中 - 展開を移行しています。
- 移行済み - 展開は正常に移行されました。移行された展開は、vRealize Automation 8 環境で表示して使用できます。
- 失敗 - 展開の移行に失敗しました。
- 除外済み - 展開は準備ができていないため、移行から除外されました。

特定のビジネス グループの展開を移行するには、その前にビジネス グループのインフラストラクチャを移行する必要があります。インフラストラクチャの移行のステータスは、[移行] - [展開] タブにも表示されます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 展開に関する考慮事項
- NSX 展開のオンボーディング サポート

展開に関する考慮事項

展開の移行は 3 段階のプロセスで、インフラストラクチャ展開コンポーネントの移行、XaaS 展開コンポーネントの移行、移行した展開のカスタマイズから構成されます。

[インフラストラクチャ展開コンポーネントの移行]

vRealize Automation は、クラウド プロバイダにインフラストラクチャ コンポーネントをプロビジョニングします。インフラストラクチャ コンポーネントの移行は、vRealize Automation 8 の Onboarding 機能を使用し、次の 2 つの部分から構成されます。

- リソースのタグ付け
 - vRealize Automation 7 のエンドポイントを移行すると、vRealize Automation 8 クラウド アカウントが作成され、レガシー エンドポイントが表すクラウド プロバイダに対するデータ収集がトリガされます。移行では、移行元の展開を使用して、vRealize Automation 8 内で一致するリソースと、それを vRealize Automation 8 の管理用にオンボーディングするために必要なデータを探し、タグ付けします。
- リソースのオンボーディング
 - 移行では、関連するタグ付きリソースをプランにリンクし、vRealize Automation 7 のときと同様に展開/コンポーネント階層を再構築するために、オンボーディング プラン（ビジネス グループごとに 1 つ）および具体的なオンボーディング ルールを作成します。プランが完成すると、移行アシスタントによってそのプランが使用され、移行元の展開が移行されます。

[XaaS 展開コンポーネントの移行]

移行アシスタントは、XaaS コンポーネントをインフラストラクチャと分けて管理します。

- 展開に XaaS コンポーネントのみが含まれる場合、移行アシスタントは展開とそのすべての XaaS コンポーネントを移行します。
- 展開にインフラストラクチャ コンポーネントと XaaS コンポーネントの両方が含まれている場合、移行アシスタントは、オンボーディング時に作成されたターゲット展開を特定し、すべての XaaS コンポーネントをそこに移動します。

注： 移行アシスタントによって作成された導入プランを再実行した場合は、インフラストラクチャ コンポーネントのオンボーディングのみが再試行されます。XaaS 展開コンポーネントの移行、および展開のカスタマイズは再試行されません。

[移行した展開のカスタマイズ]

この最後のステップでは、次の順序でこれらのカスタマイズを適用することで、移行した展開を細かく調整します。

- 1 展開の名前と説明を設定します。vRealize Automation 7 とは異なり、vRealize Automation 8 では同じ名前の展開は許可されません。移行すると、展開コンテナを移行するときに移行アシスタントによって一意の名前が強制的に適用されます。
- 2 展開リースを設定します。
- 3 展開申請履歴を Cloud Assembly に複製します。
- 4 展開の所有者を設定します。

[展開に関する考慮事項]

vRealize Automation 8 移行アシスタントでは、展開に関して新たに次の点を考慮する必要があります。

- 展開の移行中、コンピューティング処理により、プロジェクトの配置割り当てが使用されます。展開を移行する前に、[Cloud Assembly] - [インフラストラクチャ] - [プロジェクト] - [プロビジョニング] の順に選択して、配置割り当てが十分であることを確認します。クラウド ゾーンごとに、制限が表示されます。
- 展開を移行すると、移行前の環境と vRealize Automation 8 環境の両方で展開がアクティブになります。マシンが誤って削除または破棄されないようにするには、該当するユーザーを vRealize Automation 7 のビジネスグループから削除し、移行元の環境で展開のリースを変更して期限切れにならないようにします。
- ソース インフラストラクチャを移行してから展開を移行しようとする、展開の移行に失敗することがあります。展開の移行が失敗した場合は、オンボーディング プランを再実行します。[オンボーディング プランの詳細](#)。

NSX 展開のオンボーディング サポート

展開のオンボーディングでは、次の NSX コンポーネントがサポートされます。

サポートされる NSX コンポーネント

- NSX (T/V) のオンデマンド ルーティング ネットワーク
- NSX (T/V) のオンデマンド NAT ネットワーク
- NSX (T/V) の外部ネットワーク
- NSX (T/V) の既存のセキュリティ グループ
- NSX V のオンデマンド プライベート ネットワーク
- NSX (T/V) のアプリケーション隔離。これは既存のセキュリティ グループになります。
- NSX V のオンデマンド セキュリティ グループ。これは既存のセキュリティ グループになります。
- NSX (T/V) のオンデマンド ロード バランサ

注： ネットワークに何らかの NAT ルールが指定されていても、オンボーディングされるネットワーク コンポーネントには設定されません。また、外部ネットワークが移行元環境内の仮想マシンに接続されていない場合、オンボーディングされません。

vRealize Orchestrator の移行

13

vRealize Automation 7.x 環境に組み込まれた既存の vRealize Orchestrator を、組み込みの vRealize Orchestrator 8.x に移行できます。

スタンドアローン vRealize Orchestrator 環境の移行については、[vRealize Orchestrator の移行](#)を参照してください。

移行は vRealize Orchestrator 7.3 以降でサポートされています。

vRealize Orchestrator の移行では、組み込みの移行元 vRealize Orchestrator 構成が現在の vRealize Orchestrator 8.x 環境に転送され、既存のすべての要素が上書きされます。これには、ワークフロー、アクション、構成要素とリソース要素（ワークフローや構成要素内のセキュアな文字列を含む）、パッケージ、タスク、ポリシー、証明書と信頼済み証明書、プラグイン、プラグイン設定、js-io-rights.conf ファイル内のカスタム レコード、コントロール センターのシステム プロパティが含まれます。移行は、組み込みとカスタムの両方の vRealize Orchestrator コンテンツが対象です。

次のデータは移行先 vRealize Orchestrator のパフォーマンスおよび使用状況に影響を与える可能性があるため、移行された vRealize Orchestrator 構成に含まれません。

- 移行元 vRealize Orchestrator の VCAC、VCACCAFE、GEF、データ管理、およびワークフロー ドキュメントのプラグイン。ワークフローの実行とは別に、これらのプラグインに関連付けられているすべての vRealize Orchestrator コンテンツは、移行先環境に移行されません。
- コントロール センターの [情報の収集] 画面の Syslog サーバ構成。
- ワークフロー実行ログ。
- 動的タイプのプラグイン設定。

注： 移行する前に、vRealize Orchestrator エンドポイントが評価されていない場合は、vRealize Orchestrator インスタンスを再評価する必要があります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [組み込み vRealize Orchestrator 7.x インスタンスの移行](#)
- [組み込み vRealize Orchestrator 7.x クラスタの移行](#)
- [ファイル システムにアクセスするコンテンツに対する追加の移行要件](#)

組み込み vRealize Orchestrator 7.x インスタンスの移行

vRealize Automation 7.x に組み込まれた単一ノード vRealize Orchestrator インスタンスを、組み込みの vRealize Orchestrator 8 環境に移行できます。

移行すると、組み込みの vRealize Orchestrator 7.x の設定が vRealize Orchestrator 8.x 環境に転送されます。移行により、vRealize Orchestrator 8.x 環境に含まれる既存のすべての要素が上書きされます。

vRealize Orchestrator アプライアンスにバンドルされている vro-migrate スクリプトを使用して移行を実行します。

注： 移行スクリプトにより、vRealize Orchestrator サービスは自動的に停止します。移行元の vRealize Automation 環境のメンテナンス ウィンドウをスケジューリングすることが必要になる場合があります。

前提条件

- 移行は組み込みの vRealize Orchestrator 7.3 以降でサポートされています。
- 移行先 vRealize Automation 環境をバックアップします。
- 移行元 vRealize Automation インスタンスおよび移行先 vRealize Automation 環境で SSH アクセスが有効になっていることを確認します。
- 移行先の vRealize Automation 環境から移行元の vRealize Automation データベースにアクセスできることを確認します。

手順

- 1 SSH を使用して、移行先環境の vRealize Orchestrator アプライアンスのコマンドラインに root としてログインします。
- 2 移行を開始するには、vro-migrate スクリプトを実行します。
- 3 コマンド プロンプトに従って、移行元 vRealize Orchestrator インスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) と認証情報を指定します。
- 4 (オプション) 移行の進行状況を追跡するには、移行ログにアクセスします。
 - a 別の SSH セッションを使用して、移行先の vRealize Orchestrator アプライアンスのコマンドラインに root としてログインします。
 - b `tail -f /var/log/vro-migration.log` コマンドを実行します。移行プロセスが開始します。移行が終了すると、移行先の vRealize Orchestrator アプライアンスに通知が送信されます。
- 5 (オプション) 移行プロセスが完了したら、移行元 vRealize Orchestrator アプライアンスにログインし、vco-server サービスと vco-configurator サービスを再起動します。

注： vRealize Orchestrator サービスを再起動することで、移行後に確実に 7.x 展開にアクセスできるようになります。再起動後、移行元 vRealize Automation の [サービス] タブに移動して、vRealize Orchestrator サービスが登録されていることを確認します。

- SSH 経由で移行先 vRealize Automation アプライアンスにログインし、`kubectl get pods -n prelude` を実行して、vRealize Orchestrator アプライアンスから 3/3 がレポートされることを確認します。

注： `kubectl get pods -n prelude` コマンドを実行する前に、最大 20 分待つことが必要な場合があります。

- 移行先の vRealize Automation 環境で vRealize Orchestrator にアクセスできることを確認します。

組み込み vRealize Orchestrator 7.x クラスタの移行

vRealize Automation 7.x 環境に組み込まれたクラスタ化 vRealize Orchestrator 展開を、組み込みの vRealize Orchestrator 8.x 環境に移行できます。

移行すると、クラスタ化 vRealize Orchestrator 7.x の設定が vRealize Orchestrator 8.x 環境に転送されます。移行により、vRealize Orchestrator 8.x 環境に含まれる既存のすべての要素が上書きされます。

vRealize Orchestrator アプライアンスにバンドルされている `vro-migrate` スクリプトを使用して移行を実行します。

注： 移行スクリプトを実行すると、プライマリ ノードの vRealize Orchestrator サービスが自動的に停止します。移行スクリプトを実行する前に、クラスタ化された 7.x 展開のレプリカ ノードのサービスを停止してください。

```
service vco-server stop
service vco-configurator stop
```

前提条件

- 移行は組み込みの vRealize Orchestrator 7.3 以降でサポートされています。
- 移行先の vRealize Automation 8.x 環境で vRealize Orchestrator クラスタを構成します。『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』の「vRealize Orchestrator クラスタの設定」を参照してください。
- 移行先 vRealize Automation 環境をバックアップします。
- 移行元 vRealize Automation インスタンスおよび移行先 vRealize Automation 環境で SSH アクセスが有効になっていることを確認します。
- 移行先の vRealize Automation 環境から移行元の vRealize Automation データベースにアクセスできることを確認します。

手順

- SSH を使用して、移行先環境の vRealize Orchestrator アプライアンスのコマンドラインに root としてログインします。
- 移行を開始するには、`vro-migrate` スクリプトを実行します。
- コマンド プロンプトに従って、移行元 vRealize Orchestrator インスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) と認証情報を指定します。

4 (オプション) 移行の進行状況を追跡するには、移行ログにアクセスします。

- a 別の SSH セッションを使用して、移行先の vRealize Orchestrator アプライアンスのコマンドラインに root としてログインします。
- b `tail -f /var/log/vro-migration.log` コマンドを実行します。

移行プロセスが開始します。移行が終了すると、移行先の vRealize Orchestrator アプライアンスに通知が送信されます。

5 (オプション) 移行後に vRealize Orchestrator 7.x 環境にアクセスする場合は、移行元の vRealize Orchestrator アプライアンスにログインし、vco-server サービスと vco-configurator サービスを再起動します。

結果

これで、クラスタ化 vRealize Orchestrator 展開が移行されました。

ファイル システムにアクセスするコンテンツに対する追加の移行要件

vRealize Orchestrator ファイル システムに移行されるコンテンツは、新しいコンテナベース アプライアンスの要件に従う必要があります。

vRealize Orchestrator アプライアンスはコンテナ内で実行されているため、ファイル システムへのアクセスに制限があります。vRealize Orchestrator スクリプト API からファイルにアクセスできるかどうかは、`js-io-rights.conf` ファイルによって決まりますが、ファイル システム内の任意のフォルダを使用することはできません。vRealize Orchestrator サービスにアクセス可能なメイン フォルダは `/var/run/vco` です。vRealize Orchestrator アプライアンス ファイル システムでは、このフォルダは `/data/vco/var/run/vco` にマッピングされています。vRealize Orchestrator スクリプト API にアクセスするすべてのローカル ファイルは、指定されたメイン ディレクトリに移動する必要があります。メイン ディレクトリには、コンテンツのサブディレクトリを作成できます。

たとえば、外部 NFS ボリュームを vRealize Orchestrator アプライアンスにマウントする場合は、`/data/vco/var/run/vco/mount_directory_path` にマウントする必要があります。その後、vRealize Orchestrator スクリプト API は、`/var/run/vco/mount_directory_path` にマウントされた NFS ボリュームにアクセスできるようになります。

Kerberos の設定

Kerberos の設定を使用するには、`/data/vco/usr/lib/vco/app-server/conf/krb5.conf` ファイルのみを使用します。Kerberos デバッグ ログの詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』の「Kerberos デバッグ ログの有効化」を参照してください。

移行の結果の確認方法

14

vRealize Automation 7 の移行元環境のコンポーネントを移行した後で、移行の結果を表示できます。

移行の結果を表示するには、[インフラストラクチャ]、[サブスクリプション]、[展開] の各タブで [移行の結果] タブをクリックします。移行したコンポーネントが、次のステータスと共に表示されます。

- 移行中 - アイテムを移行しています。
- 移行済み - 移行は正常に完了しました。移行されたアイテムを vRealize Automation 8 環境で確認、使用できます。
- 失敗 - 移行は失敗しました。移行元環境でアイテムを確認し、必要に応じて変更してから移行を再試行します。
- 除外済み - 「準備ができていません」と示されたビジネス グループ、サブスクリプション、またはデプロイが移行されましたが、少なくとも 1 つの準備ができていないアイテムが移行されず、除外済みとして一覧表示されています。
- ロールバック - 移行されたアイテムはロールバックされ、vRealize Automation 8 では使用できません。

[エクスポート] をクリックして移行結果をエクスポートすることもできます。移行結果レポートに含まれているライブリンクをクリックすると、移行されたコンテンツが vRealize Automation 8 で開きます。

この章には、次のトピックが含まれています。

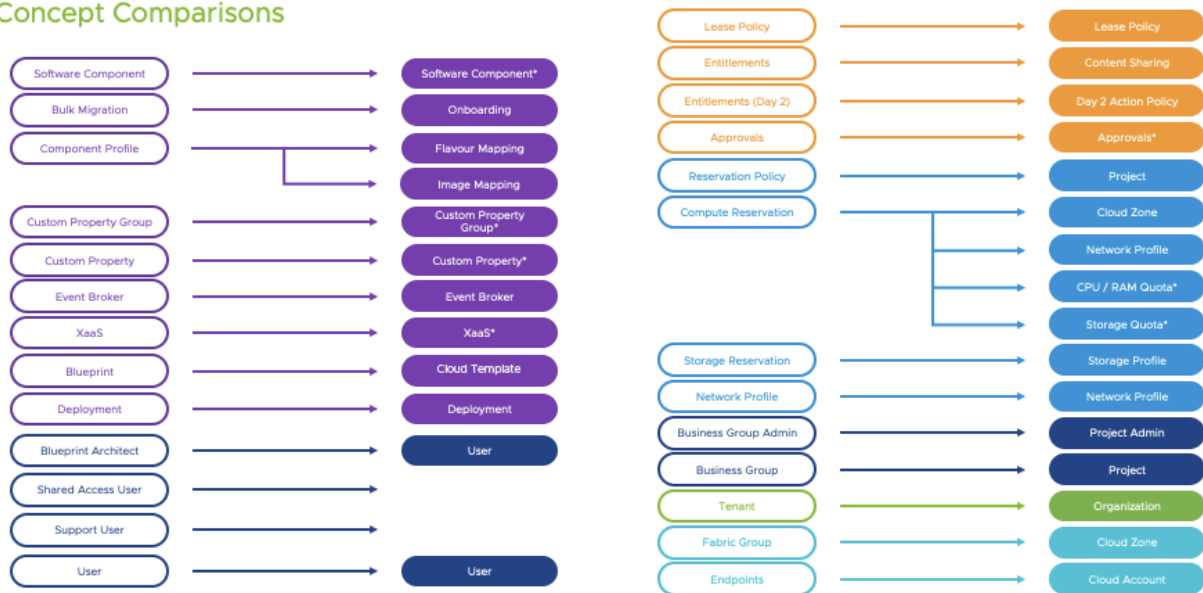
- [vRealize Automation 7 と vRealize Automation 8 の間の構造のマッピングを表示する方法](#)

vRealize Automation 7 と vRealize Automation 8 の間の構造のマッピングを表示する方法

移行アシスタント ツールを使用すると、vRealize Automation 7 のソース インスタンスと vRealize Automation 8 の間のマッピングを表示できます。

移行後、vRealize Automation 8 内のコンポーネントは vRealize Automation 7 とは異なる方法でマッピングされる可能性があります。移行の結果を表示したら、マッピング構造の表を参照して、ソース コンポーネントがどのように移行、保存されたかを確認します。

Concept Comparisons



共通予約

共通予約は、クラウド ゾーン、コンピューティング、および地域のパラメータが一致することによって識別されます。移行すると、共通予約には予約ポリシーに基づくタグが移行アシスタント ツールによって割り当てられ、同じクラウド ゾーン内の1つの予約としてマージされます。このマージ プロセスは、ネットワーク プロファイルとストレージ プロファイルの移行にも適用されます。

注： 移行の前にネットワーク プロファイルを定義していない場合、移行アシスタント ツールは予約名に基づいて新しいネットワーク プロファイルを作成し、その後の予約に再利用します。

移行結果および予約マッピングを表示するには、移行されたビジネス グループをクリックして、[移行の結果] タブを選択します。

移行のロールバック時に発生する処理

15

移行済みのアイテムは、必要に応じて移行アシスタントを使用してロールバックできます。

移行アシスタントには、移行されたアイテムを vRealize Automation 8 環境から削除できるロールバック機能があります。移行後に、移行されたアイテムを vRealize Automation 8 内で変更し、その後ロールバックした場合、移行後のすべての編集は削除されます。共有クラウド テンプレートを含むビジネス グループをロールバックすると、クラウド テンプレートの所有権は、そのクラウド テンプレートに関連付けられている残りの移行済みプロジェクトに移動します。

注： クラウド ゾーン タグとカスタム フォームはロールバックの実行後も保持されます。プロジェクトに関連付けられているアクティブな展開がある場合、ビジネス グループをロールバックすることはできません。

移行したアイテムをロールバックするには、次の手順を実行します。

- 1 移行アシスタント サービスに移動します。
- 2 [インフラストラクチャ] または [サブスクリプション] 画面で、移行したアイテムを選択します。

注： ロールバックできるのは、移行されたビジネス グループおよびサブスクリプションのみです。

- 3 [ロールバック] をクリックします。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 移行後に実行した移行元環境への更新を移行する方法

移行後に実行した移行元環境への更新を移行する方法

vRealize Automation 8 への初期移行を実行した後、移行元の 7.x 環境に加えた変更も移行が必要になる場合があります。

更新の種類が新しいコンテンツであるか既存のコンテンツへの更新であるかに応じて、再読み込みまたはロールバックが必要になることがあります。

[7.x の移行元環境に新しいコンテンツを追加した場合]

7.x の移行元環境で新しいコンテンツを作成した場合、vRealize Automation 8 への移行をロールバックする必要はありません。新しいコンテンツを移行するには、7.x の移行元環境を再移行します。移行アシスタントが新しいコンテンツを識別して移行します。

[既存の 7.x 移行元環境を更新した場合]

7.x の移行元環境で既存のコンテンツを更新した場合は、vRealize Automation 8 への移行をロールバックする必要があります。ロールバック後、移行元環境を再移行します。

移行後の手動の手順

16

vRealize Automation 8 に移行した後、いくつかの移行後手順を手動で実行することが必要になる場合があります。

カタログ アイコンとブランディング

カタログ アイコンとブランディング アイテムを使用する場合、これらは移行時に引き継がれないため、vRealize Automation 8 に手動で追加する必要があります。

移行後の検証手順

17

vRealize Automation 8 に移行したら、次に示す移行後の手順を確認して移行を検証します。

移行されたインフラストラクチャの確認

手順	詳細
クラウド アカウントで、エンドポイントが正しく移行されたことを確認します。	
プロジェクトで、正しいゾーンが有効になっていることを確認します。	各ビジネス グループを 1 つのプロジェクトにする必要があります。
予約は統合される場合があります。クラウド ゾーン、ネットワーク プロファイル、ストレージ プロファイル、イメージ マッピング、フレーバー マッピングを確認します。	ネットワーク プロファイルに IP アドレス管理用の正しい CIDR が設定されていることを確認します。 ネットワーク プロファイルおよびストレージ プロファイルのタグをコピーし、[タグの使用] に入力して、関連付けられているすべてのアーティファクトを表示します。
クラウド テンプレートを確認します。	ブループリントがクラウド テンプレートになっています。クラウド テンプレートは、正しいプロジェクトに関連付けられている必要があります。 テスト用クラウド テンプレートを実行して、ネットワークとゾーン間の配置についてタグを検証します。 (オプション) クラウド テンプレートのプロパティに「preventDelete:true」フラグを追加して、移行済みのマシンが更新中に破棄または削除されないようにします。
XaaS アイテムを確認します。	XaaS ブループリントが、カスタム リソースまたは Service Broker ワークフロー サービスを使用してクラウド テンプレートに移行されていることを確認します。
ユーザーと承認ポリシーを確認します。	ユーザー同期を実行して、承認ポリシーとユーザーを確認します。

移行されたサブスクリプションの確認

サブスクリプションを移行したら、次のアイテムを確認して検証します。

- イベント トピックが正しいことを確認します。
- 条件ロジックが正しいことを確認します。
- 1 つのサブスクリプションが複数のサブスクリプションに移行される場合があります。想定されるすべてのサブスクリプションが移行されたことを確認します。

- サブスクリプションに関連付けられているワークフローが正しいこと、およびペイロード変数とカスタム プロパティが手動で更新されていることを確認します。詳細については、[¥拡張性移行ガイド](#)を参照してください。
- 移行されなかったサブスクリプションは、修正が必要になる場合があります。移行評価レポートで移行されなかったサブスクリプションを確認し、移行先環境内の移行済みサブスクリプションを修正します。

移行されたデータの確認

vRealize Automation 8 に移行した後に、移行済みのデータを確認します。

- マシンが正しいネットワークおよびストレージの場所に接続されていることを確認します。
- 移行を実行したアカウントが移行後の環境を所有していることを確認します。
- 移行後の環境がクラウド テンプレートに関連付けられていないことを確認します。

移行のトラブルシューティング

18

移行中に問題が発生した場合は、以下に示す移行のトラブルシューティング手順を実行します。

問題の原因とトラブルシューティング手順は、現在実行している移行のステージによって異なります。移行のトラブルシューティングの詳細については、以下を参照してください。

- [トラブルシューティング：移行評価](#)
- [トラブルシューティング：移行の失敗](#)
- [トラブルシューティング：移行のロールバックの失敗](#)

この章には、次のトピックが含まれています。

- [トラブルシューティング：移行評価](#)
- [トラブルシューティング：移行の失敗](#)
- [トラブルシューティング：移行のロールバックの失敗](#)

トラブルシューティング：移行評価

移行評価が失敗した場合、または移行評価で問題が発生した場合は、次のトラブルシューティング手順を実行します。

表 18-1. 移行評価のトラブルシューティング

問題	理由	解決方法
ビジネス グループの評価が失敗しました。	移行元のアカウントを接続した後で、移行評価が失敗することがあります。	移行評価を再試行します。
複数のテナントの評価を実行したときに、評価レポートに1つのテナントの情報しか表示されません。	評価レポートに表示されるのは、評価されたすべてのテナントの情報ではなく、最後に評価されたテナントの情報のみです。	表示されていないテナントを再度追加して、評価を再実行します。表示されていないすべてのテナントについて繰り返します。
複数組織の移行元環境を追加した後、移行元インスタンス画面に 404 Bad Request エラーが表示されます。	同じブラウザ ウィンドウで1つ以上のテナントがタブとして開かれています。	テナントごとに別のブラウザを使用してください。
移行評価に vRA 7.x の移行元環境を追加することができず、「Http failure response for https://<vRA8 FQDN>/migration/api/tenants/GUID/include: 500 OK」 というエラーメッセージが発行されます。	SSL 証明書のホスト名が正しくなく、SSL 証明書に含まれているのと同じホスト名を持つ vRA 7 ソース システムがすでに追加されています。	サポートに問い合わせてください。

トラブルシューティング：移行の失敗

さまざまな理由により、vRealize Automation 8 への移行が失敗する場合があります。移行が失敗した場合は、次のトラブルシューティング手順を実行します。

表 18-2. 失敗した移行のトラブルシューティング

移行のタイプ	理由	解決方法
クラウド アカウント移行	クラウド アカウント移行は、移行のタイムアウトが原因で失敗することがあります。	クラウド アカウント移行を再試行します。
NSX コンポーネントを含むブループリントのブループリント移行の失敗	一括移行の際、ビジネス グループでいずれかのエンドポイントの移行が失敗すると、同じビジネス グループに NSX のコンポーネントが含まれている場合は NSX の関連付けが失敗する可能性があります。たとえば、セキュリティグループを含むブループリントの場合、関連付けられた NSX クラウド アカウントを移行アシスタント サービスが見つけれられないため、移行が失敗します。	vRealize Automation 8 で vCenter Server への NSX の関連付けを手動で追加してから、移行を再試行します。
サブスクリプション移行の失敗	一部のサブスクリプションは、deploymentId や blueprintId などのフィールドに依存しています。インフラストラクチャ コンポーネントを最初に移行しなかった場合は、サブスクリプションの移行に失敗します。	インフラストラクチャ コンポーネントを移行してから、サブスクリプションの移行を再試行します。
XaaS ブループリントまたはカスタム リソース移行の失敗	基盤となるワークフローが移行されていない場合、または vRealize Automation 8 でサポートされていない場合は、XaaS ブループリント/カスタム リソースの移行に失敗します。	基盤となるワークフローを移行してから、XaaS ブループリント/カスタム リソースの移行を再試行します。ワークフローがサポートされていない場合は、ブループリント/リソースを移行できません。

トラブルシューティング：移行のロールバックの失敗

さまざまな理由により、ロールバックが失敗する場合があります。失敗した場合は、次のトラブルシューティング手順を実行します。

表 18-3. 失敗したロールバックのトラブルシューティング

失敗の理由	解決方法
vRealize Automation 8 環境にアクティブな展開が含まれている場合、ビジネス グループとプロジェクトの一括ロールバックが失敗します。	vRealize Automation 8 環境からアクティブな展開を削除し、ロールバックを再試行します。

使用事例：ライブの本番環境を変更することなく本番環境の変更を特定して計画する方法

19

状況によっては、本番環境の変更を開始する前に、本番環境の変更の特定と計画が必要になる場合があります。

変更の適用やダウンタイムのスケジュール設定を即座にすることなく、本番環境の変更の特定と計画が必要になることがあります。複製環境を作成することで、変更を適用してライブの本番環境を変更する前に変更を確認できます。複製環境は、ライブ環境外で問題のトラブルシューティングを実行する際にも役立ちます。

手順

- 1 複製環境を作成するには、既存の vRA 7.6 本番環境を新しい vRA 7.6 開発環境に移行します。
- 2 開発環境でエージェントを無効にします。
- 3 移行アシスタントを使用して、7.6 開発環境に対して vRA 8 の移行評価を実行します。
- 4 評価結果を確認して、7.6 本番環境で必要となる変更を特定します。
- 5 vRA 7.6 本番環境に変更を適用します。
- 6 本番環境を vRA 8 に移行します。